

第64回

感じよう 森のめぐみと 緑の豊かさ

# 全国植樹祭

とっとり 2013

## 基本計画



鳥取県

## 第1章 開催概要

1 開催方針	1
2 開催理念	2
3 県民運動について	3
美鳥の大使による美しい国づくり運動の概念	4
4 大会テーマ	5
5 シンボルマーク	5
6 大会ポスター原画	5
7 開催時期	6
8 主催	6
9 開催規模	6
10 開催地概要	6

## 第2章 式典行事計画

1 基本方針	8
2 式典演出計画	9
3 式典進行プログラム	9

## 第3章 植樹行事計画

1 基本方針	10
2 お手植え計画	10
3 お手播き計画	13
4 代表者記念植樹計画	14
5 参加者記念植樹計画	15
6 植樹会場の森林づくりの方向性	16
7 植樹会場整備計画	17

## 第4章 会場整備計画

1 基本方針	19
2 施設配置計画	19
3 主要施設計画	21
4 サイン計画	22
5 飾花計画	23
6 電気・給排水・通信設備計画	23

## 第5章 運営計画

1 基本方針	24
2 招待計画	24
3 参加者行動計画	26
4 受付計画	27
5 特別接伴・接遇計画	29
6 会場内動線計画	30
7 会場おもてなし計画	31
8 昼食計画	32
9 医療・衛生計画	32
10 消防・防災・警備計画	33
11 実施本部計画(実施本部体制案)	34
12 研修リハーサル計画	35
13 雨天時・強風時対応計画	35

**第6章 宿泊・輸送等計画**

1 基本方針	36
2 宿泊計画	37
3 輸送計画	38
4 視察計画	41

**第7章 荒天時式典計画**

1 基本方針	42
2 会場	42
3 参加者一覧	42
4 荒天時運営計画	43

**第8章 県民運動計画**

1 基本方針	45
2 運動の進め方	45
3 運動の内容	45

**第9章 記念事業等計画**

1 基本方針	46
2 記念事業等の内容	46
3 関連事業等の内容	47

**第10章 広報・協賛計画**

1 広報計画	48
2 協賛計画	49

# 1 開催方針

(1)はじめに

全国植樹祭(第20回大会までは「植樹行事並びに国土緑化大会」、第21回大会からは現行の「全国植樹祭」が正式名となっている。)は、公益社団法人国土緑化推進機構と開催都道府県の共催により、昭和25年以降、持ち回りで開催されており、これまでこの大会では、天皇皇后両陛下にご臨席を賜り、県内外から多くの参加者にお集まりいただき、式典行事や記念植樹などが行われています。

鳥取県では、昭和40年5月9日、天皇皇后両陛下をお迎えし、第16回全国植樹祭を大山町で開催しました。この大会では、両陛下が、大山町上楨原においてダイセンマツをお手植えになるとともに、大山町博労座においては、ダイセンマツ、オキノヤマスギのお手播きをいただきました。また、参加者1万余人により上楨原でダイセンマツ32,000本(8ha)の記念植樹が行われました。

(2)開催意義

県土の73%を森林が占める鳥取県は、古くから森林に恵まれ、妻木晩田遺跡や青谷上寺地遺跡等の古代・木の文化が発祥しました。

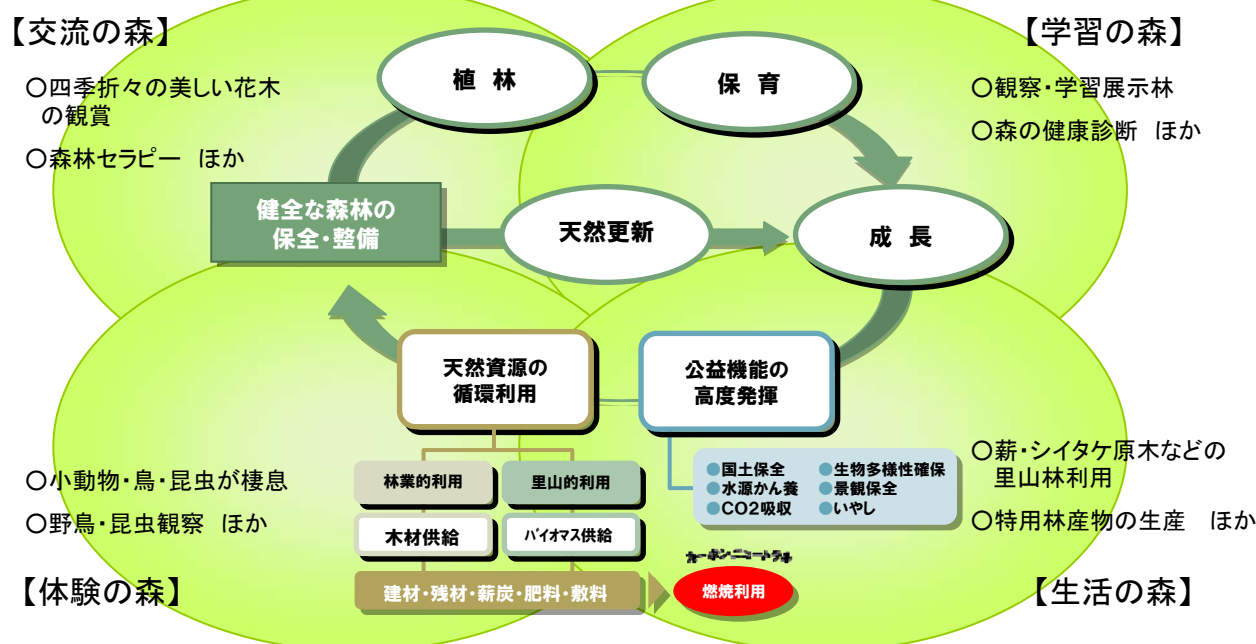
鳥取県で開催された第16回全国植樹祭は、「林種転換による拡大造林」をテーマに開催され、各地で植林が行われ豊富な森林資源の造成と林業・木材産業の活性化が図られ木の文化を継承する契機となりました。

しかし近年では、長引く木材価格の低迷、山村の過疎・高齢化の進行等により林業離れが加速し、全国的に手入れの行き届かない人工林が増加しています。また、前回大会でのお手植え樹種であったアカマツは、その後のマツクイムシ被害の急速な拡大により、県内マツ林の機能低下を招きました。

その他、里山の放置によるシカ等の獣害、放置竹林の繁茂、カシノナガクイムシによるナラ枯れなど、新たな被害も拡大し、森林としての機能が急速に失われつつあります。

平成25年の全国植樹祭は、森林の機能を復活させるために、木材資源の循環利用を図りながら、県民全体で推し進める森林づくりのモデル林を整備し、「持続可能な森林づくり」を始める契機として開催します。

## 【持続可能な森林づくりのイメージ】



## 2 開催理念

京都議定書の発効以降、森林のCO2吸収機能への国民的関心は高まっており、県内各地では「とっとり共生の森」や「森林環境保全税」、カーボンオフセットを活用した森林整備を始めとする、企業や県民による森林保全活動の輪が広がっています。

また、平成23年に開催されたCOP17(気候変動枠組条約第17回締約国会議)において、平成25年から森林吸収量の算定手法に、新たに自国産の伐採木材製品に含まれる炭素量が認められることとなり、森林の果たすべき役割が益々重要となってきます。

このような中、平成25年に開催する全国植樹祭では、環境先進県「とっとり」の活動を県内外に発信し、今後更に森と親しみながら共生していく社会の実現を目指します。

### ■平成22年：国際生物多様性年

COP10(生物多様性条約第10回締約国会議)を名古屋市で開催。生物多様性に関する世界目標(2011～2020年)が採択され、生物多様性損失に対する国民の危惧が今まで以上に高まる。

### ■平成23年：国際森林年

持続可能な森林経営等について認識を高めるよう、国際的な取り組みを実施。

#### 【世界情勢】

#### ■平成25年：京都議定書第二約束期間のスタート

「国際森林年」の平成23年に南アフリカで開催されたCOP17で、約束期間が切れる京都議定書を平成29年末までの5年間、または平成32年末までの8年間延長する第二約束期間を実施。

平成32年(2020年)に大排出国である中国や米国を含めた新たな枠組みの発効を目指す。

#### 【日本の動き】

#### ■平成25年：新たな環境戦略のスタート

京都議定書の延長には参加しないものの、引き続き温室効果ガスの排出削減努力を続ける。

COP17では、森林吸収量の算出手法において間伐や植林のほかに新たに自国産の伐採木材製品に含まれる炭素量が認められることとなり、森林吸収源対策として間伐などの森林整備を更に推し進める。



## 環境先進県「とっとり」をアピール



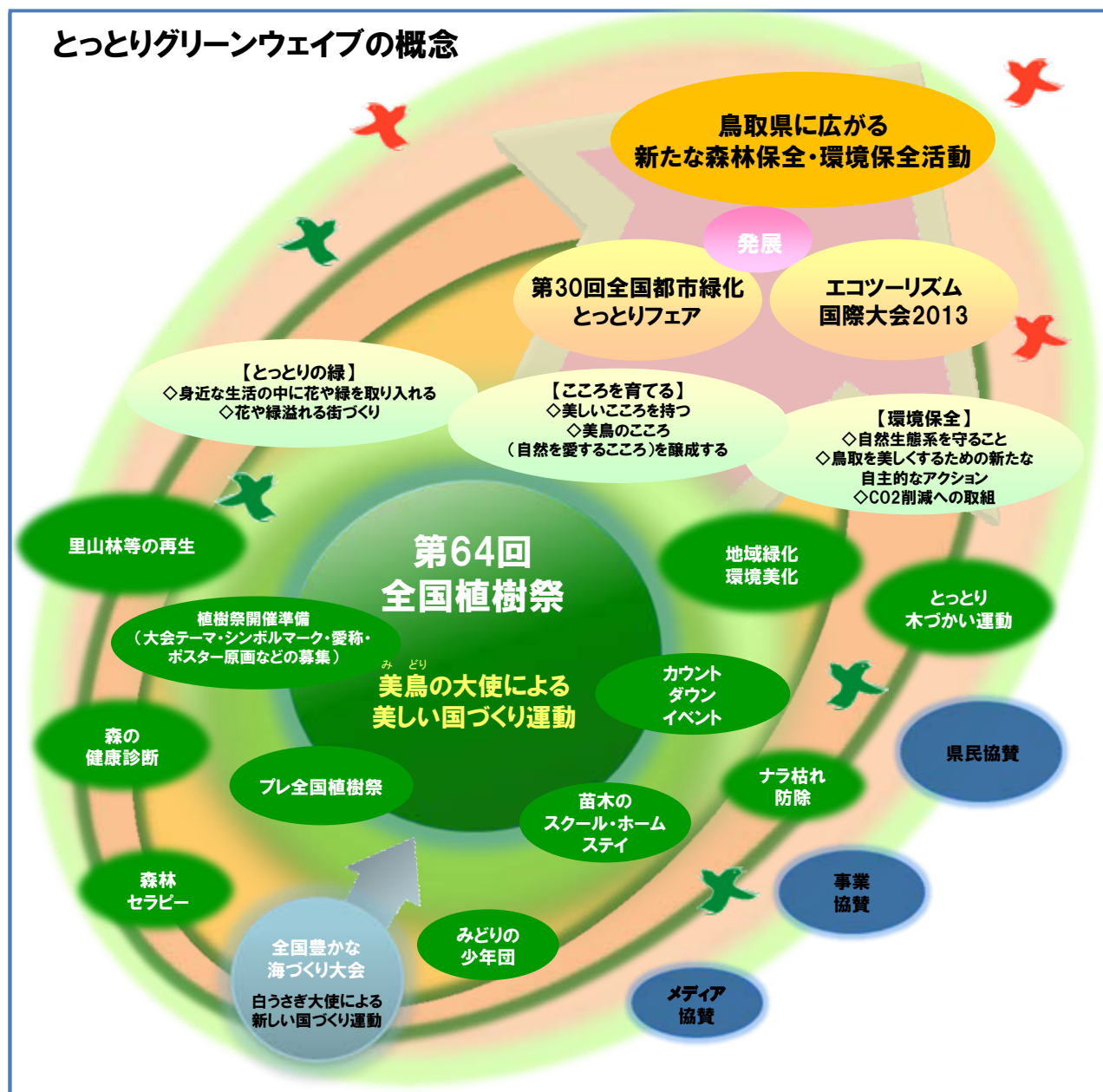
### □平成25年：第64回全国植樹祭鳥取県開催

持続可能な森林づくりによる地球環境の保全や、里山林等森と親しみながら共生してゆくライフスタイル、就業スタイル等の

**「心癒される森林づくり」を推進します。**

### 3 県民運動について

- 第64回全国植樹祭の開催を契機に、県民、企業、ボランティア等の多くの皆さんが環境保全活動に取り組み、自ら行動する県民運動「とっとりグリーンウェイブ」の気運を醸成し、緑豊かな鳥取県から環境の良さを全国にアピールする県民運動として発展させ、県民運動の中心となる人々を「**美鳥の大使**」と位置付けます。
- 美鳥の大使による県民運動は、第64回全国植樹祭と同じ平成25年に鳥取県で開催される「第30回全国都市緑化とっとりフェア」「エコツーリズム国際大会2013in鳥取」へと発展・承継させ、環境日本一の鳥取県を目指します。



＜<sup>みどり</sup>美鳥の大使が目指すもの＞  
 地域で取り組む植樹や育林、木づかい運動、環境美化、水産業振興、緑や自然を生活に取り入れたり親しんだりする活動などに取り組む人々が相互につながり合い、県全体にその輪が広がる運動とする。



みどり  
〔美鳥の大使による美しい国づくり運動の概念〕

新たな国造り運動に参加する白うさぎ大使から「引き継ぐDNA」



**Dynamic** 力強い  
**Nature** 自然界  
**Advance** 前進



継承

全国植樹祭「とっとりグリーンウェイブ(県民運動)」に参加いただく  
すべての県民が「広めるDNA」



みどり  
美鳥の大使による美しい国づくり運動

波及・拡大



**Daily** 日常の  
**Near** 身近な  
**Action** 行動



継続

全国植樹祭終了後も継続した取り組み(ポスト植樹祭)を行う  
すべての県民が「進化させるDNA」

進化

- ◆ 植樹会場の手入れ(花回廊・鏡ヶ成高原)
- ◆ 地域植樹会場での体験型イベント等

**Discover**  
**Newborn**  
**Activity**

発見  
新生  
活動

- ◆ 第30回全国都市緑化とっとりフェア
- ◆ エコツーリズム国際大会2013

第64回全国植樹祭開催後も「美鳥の大使」のDNAを広め進化させる  
県民総参加による美しい国づくり(森林づくり)を推進

## 4 大会テーマ

# 「感じよう 森のめぐみと 緑の豊かさ」

(作者:宇田川 葉(うだがわ しおり)さん (鳥取県立米子南高等学校2年生))

### 〔講評〕

森のめぐみや緑を守り育ててくれた先人への感謝の気持ちと、緑の豊かさを次代に継承していこうという強いメッセージがこめられています。

## 5 シンボルマーク

### 【シンボルマーク】

※全国公募により選定しました。

#### ○制作意図

鳥取県の鳥と樹木を合わせたデザインで、全体の輪郭は大山の形もイメージさせ、首から提げた双眼鏡には森の観察を呼びかけるメッセージが込められています。また、胸のハートマークで大会テーマ「感じよう 森のめぐみと 緑の豊かさ」を表現しています。

#### ○作者

伊藤 うちゅぷ(いとう うちゅぷ)さん ※ペンネーム  
(千葉県八千代市)

### 【シンボルマーク愛称】

※鳥取県内在住の方を対象に募集し、選定しました。

#### ○制作意図

「鳥取」と「木」を組み合わせ、インパクトのある親しみやすい愛称にしました。

#### ○作者

武海 博華(たけうみ ひろか)さん  
(鳥取県西伯郡南部町)

### 〔マーク〕



### 〔愛称〕

「トッキーノ」

## 6 大会ポスター原画

※鳥取県内の小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校の児童生徒を対象に募集し、選定しました。

#### ○制作意図

緑や生き物に囲まれて、笑顔で生活できる喜びを表現しました。

#### ○作者

中家 秀斗(なかいえ しゅうと)さん  
(鳥取市立西郷小学校 5年)

### 〔画題〕 自然がいっぱい





## 7 開催時期

平成25年春季

## 8 主催

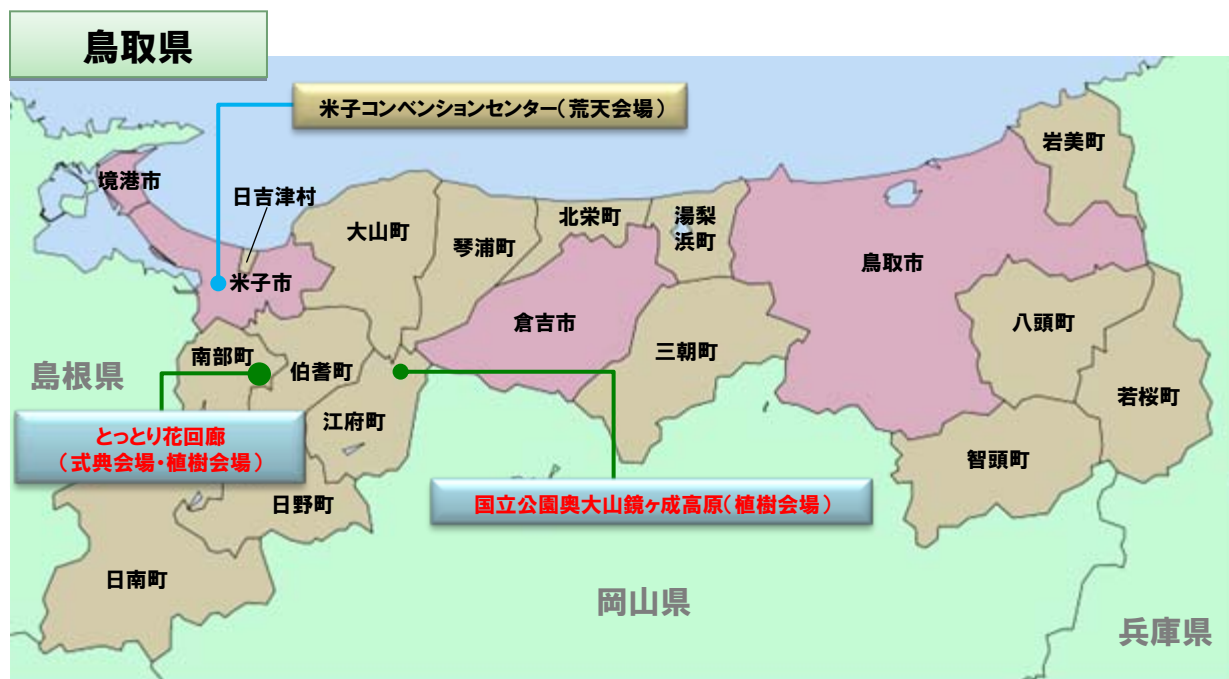
公益社団法人国土緑化推進機構、鳥取県

## 9 開催規模

お手植え行事及び式典行事の参加者数は、5,000人程度の県内外招待者と、2,000人程度の県内協力者及びスタッフ等としますが、荒天の場合は、1,000人程度の招待者とします。

区分	参加予定者数	備考
県外の招待者	1,500人	国関係者、被表彰者、他県参加者等
県内の招待者	3,500人	県議会、市町村関係者、緑化関係団体、公募参加者、県実行委員会等
本部員・協力員	2,000人	実施本部員、出演者、運営ボランティア等
総計	7,000人	

## 10 開催地概要



(1) 式典会場・植樹会場

式典会場:とっとり花回廊(南部町鶴田 5,000人が参加)

植樹会場:とっとり花回廊いやしの森(伯耆町小野 式典参加者のうち4,500人が参加)

県立の施設として1999年4月に開園した、大山を間近に望む日本最大級(約50ヘクタール)のフラワーパーク。多彩な植え替え花壇、大温室「フラワードーム」や展示館、周囲1kmの屋根付き展望回廊など、天候に左右されず一年中花が楽しめます。自然の起伏や森林を活かした広大な自然環境の中、季節の移り変わりを存分に味わうことができます。開園時からオランダの世界的な花の名園「キューケンホフ公園」と交流しており、2010年に姉妹公園の覚書を締結しました。



フラワードーム



花の谷(キューケンホフコーナー)

(2) 植樹会場

国立公園 奥大山鏡ヶ成高原(江府町鏡ヶ成 500人が参加)

烏ヶ山の南麓に広がる大平原で、清流の流れる溪谷とブナをはじめとする森に囲まれた標高900m前後の景観優美な高原です。高原の上方は、国民休暇村やキャンプ場が整備され、冬はスキー、夏は避暑地として人気があり、下方は広大な農地に開拓されているほか、豊かな水を活かしてミネラルウォーターが生産されています。



休暇村 奥大山



溪谷で水に親しむ子どもたち

## 1 基本方針

- 大会テーマ「感じよう 森のめぐみと 緑の豊かさ」を、参加者や全国の人々に分かりやすく伝え、魅力あるふるさと「とっとり」を支える豊かな自然や森林の役割を発信します。
- 「森は海の恋人」と云われるように、きれいな海を守るためには豊かな森が必要であるという、森・川・海のつながりを表現します。
- 豊かな自然に囲まれた大山の雰囲気を活かして、鳥取の自然の魅力や歴史、文化、産業を全国にアピールし、「また鳥取に行きたい」と感じてもらう構成とします。
- 環境に配慮された手作りの式典とします。
  - ◇「とっとり共生の森」参加企業等環境先進企業、NPO、多様なボランティアによる協力をいただきます。
  - ◇式典を通じて排出されたCO<sup>2</sup>を、鳥取県が認証取得したJ-VERで相殺します。
  - ※J-VERとは：環境省オフセット・クレジット（J-VER）制度により認証された、CO<sup>2</sup>の削減・吸収クレジットのこと。
- 多様なボランティア、子ども達、高齢者、障がい者など多くの県民や、大会に賛同いただいた企業等が参加できるよう配慮し、県内緑の少年団等の協力を得ながら、鳥取らしく来場者を温かくおもてなし、歓待します。
- 司会者、式典進行介添え役、式典音楽隊、アトラクション等の出演者及び演出家等については、地元をはじめ、県内関係団体等の積極的な協力と参加を得て編成します。

### ◎演出展開イメージ

#### 大会テーマ

「感じよう 森のめぐみと 緑の豊かさ」

#### 鳥取の魅力PR



#### 多くの県民参加

子ども達  
高齢者  
障がい者  
ボランティア  
NPO  
企業

#### 広がる県民運動

地域緑化イベント  
苗木のスクールステイ



県民協働による森林(もり)づくりへの取り組みと  
豊かな自然や森林の役割を発信

環境先進県「とっとり」をアピール



## 2 式典演出計画

○式典の構成は、プロローグ、記念式典、エピローグの3部構成とします。

区分	演出テーマ	演出の意図
プロローグ	第一楽章 はじまり	○参加者を歓迎する気持ちを表現する内容とし、鳥取の豊かな自然や文化、森林・林業・木材産業の紹介や県民が参加する創作劇等のアトラクションを実施します。
記念式典	第二楽章 はぐくみ	○天皇皇后両陛下によるお手植え、お手播き、国土緑化功労者等の各種表彰、大会宣言、次期開催県へのリレーセレモニー等を行います。 ○大会宣言等は開催理念を、わかりやすく表現します。
エピローグ	第三楽章 はばたき	○参加者を送迎しつつ、未来へのメッセージを伝え、全員でその意味を確認し、全国に発信します。

## 3 式典進行プログラム

時間	区分	プログラム	進行内容
10:15	プロローグ	プロローグ案内	鳥取県の豊かな自然と、その自然に培われた歴史・文化・産業等を表現
		歓迎演出	
10:50		記念式典のご案内	
11:00	記念式典	天皇皇后両陛下 御到着	
		開会のことば	
		三旗掲揚・国歌斉唱	
		主催者挨拶	
		表彰	森林や自然を育み守ってきた緑化功労者への感謝として表彰
		苗木の贈呈	
		天皇皇后両陛下のお手植え・お手播き	
		参加者代表記念植樹	
		大会テーマの表現	環境先進県とっとりが目指す森林づくり、「美しい国づくり運動」を発信し、大会テーマ「感じよう 森のめぐみと 緑の豊かさ」を創造的に表現
		大会宣言	
11:50	記念式典	リレーセレモニー	次期開催県への引継ぎ
		閉会のことば	
		天皇皇后両陛下 御退席	
12:00	エピローグ	エピローグ案内	未来へのメッセージを発信し、来場者参加型演出により会場全体を盛り上げ
12:15		エピローグ演出	

## 1 基本方針

- 式典会場内に、お手植え所、お手播き所、代表者記念植樹地を設けます。
- 参加者(代表者以外)の記念植樹は、とっとり花回廊(南部町鶴田・伯耆町小野)、及び国立公園奥大山鏡ヶ成高原(江府町鏡ヶ成)の各植樹会場で行います。
- 植樹行事は、鳥取県の気候風土に適した樹種の植栽等、地域特性に応じた森林づくりを目指します。
- 種子の採取から育成、植えつけまでを植樹ととらえ、森林づくり活動の拡大につなげていきかけとなるように、多様なボランティア、子供たち、高齢者、障がい者などを含む、できるだけ多くの県民や、「とっとり共生の森」参画企業等が参加できるようにします。
- 県内で採取した種子を使って、「苗木のスクールステイ・ホームステイ」により子供たちや企業・団体等が育てた苗木や、生産者が育成した苗木を使用します。
- 植樹会場は、持続的な県民運動の活動の場として、県民誰もが森林や自然にふれあい、学習、体験などができる森をつくります。

## 2 お手植え計画

- 天皇皇后両陛下のお手植えは、お手植え所で「森」の字をかたどり、それぞれ3本の植樹とします。
- 樹種は、鳥取県の自然条件にあった在来の樹種の内、高木性を中心に県民に親しみのあるものとし、両陛下にそれぞれ3種類賜ります。
- お手植えされた記念樹は、森林づくり運動のシンボルとして、大切に管理・育成します。

〔お手植え樹種(6種)〕

アカマツ (とっとりパワー松)	スダジイ	コナラ
ヤマボウシ	ウワミズザクラ	ホオノキ



〔天皇陛下お手植え樹種(3種)〕

樹種	特徴・選定理由等
<p style="text-align: center;"><b>アカマツ</b> (とっとりパワー松)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内に広く自生し、とくに大山周辺のものには「大山マツ」として全国的に有名です。</li> <li>・県西部地域は、良質な砂鉄と豊富なマツ炭に恵まれ、かつては刀鍛冶が盛んでした。</li> <li>・県が開発した松くい虫に強い品種「とっとりパワー松」を、後継樹として植栽します。</li> <li>・アカマツは昭和40年に大山町で開催された第16回植樹行事並びに国土緑化大会(現在の全国植樹祭)において、昭和天皇・香淳皇后によってお手植えされた樹種です。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>スダジイ</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内に広く自生する代表的な極相種(常緑広葉樹林の優占種)です。</li> <li>・昔から、鎮守の森など地域で大事に守られたことから巨樹巨木が多く、天然記念物に指定されています。</li> <li>・県中部の琴浦町には、幹回り11.4m、樹齢千年以上といわれる「伯耆の大シイ」があり、昭和十二年に国の天然記念物に指定されています。</li> <li>・実は渋がなく生で食べることが出来るので、縄文時代には貴重な食糧でした。</li> <li>・県西部にある国内最大級の弥生時代の集落「妻木晩田遺跡」では、竪穴住居の柱などの建築部材にも使われていました。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>コナラ</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の里山(二次林)を代表する樹種の一つで、ハハソ、ホウソ、ホウボウソなどの方言で呼ばれています。</li> <li>・萌芽更新が容易なことから、かつては燃料や肥料として利用されていました。</li> <li>・シイタケの原木栽培に多く用いられています。</li> <li>・樹液が豊富なため、夏になるとクワガタムシなどの昆虫が多く集まります。</li> <li>・秋にはドングリがたくさん出来、野生動物の豊富な餌資源となっています。</li> </ul>

## 〔皇后陛下お手植え樹種(3種)〕

樹種	特徴・選定理由等
<p style="text-align: center;"><b>ヤマボウシ</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の山地に見られる落葉広葉樹の一つで、イツキ、ウツキなどの方言で呼ばれています。</li> <li>・初夏に黄緑色の小さな花が集まり球形の花序をつくり、その周りに白い4枚の総苞片が開くため、全体として一つの花のように見えます。</li> <li>・花に見える白い4枚の総苞片が開いた姿が、山法師のように見えるというのが名前の由来です。</li> <li>・秋には球状の赤い実をたくさん付け、野鳥が好んで食べます。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>ウワミズザクラ</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の山地に見られる落葉広葉樹の一つで、ハイカ、ネズラ、メズラ、ゴテンザクラなどの方言で呼ばれています。</li> <li>・普通の桜と異なり、春に総状花序を出し、白い花をたくさん付けます。</li> <li>・夏から秋にかけて赤い実がなり、野鳥が好んで食べます。</li> <li>・名前の由来は、古代、鹿の肩甲骨の裏側に溝をつけ、焼いた木(本種)を押しつけて占ったことから、ウラミゾ→ウワミゾ→ウワミズとなったという説があります。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>ホオノキ</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の山地に見られる落葉広葉樹の一つで、フデノキ、ホホバなどの方言で呼ばれています。</li> <li>・春から初夏にかけ、大きな緑色の葉の中心に、香りの良い大輪の白い花を咲かせます(日本最大)。</li> <li>・大きな葉は、昔から食べ物を包むのに利用されており、現在でも朴葉焼きなどに利用されます。</li> <li>・秋に赤い袋果をつけ、野鳥が好んで食べます。</li> </ul>

### 3 お手播き計画

- 天皇皇后両陛下のお手播きは、お手播き所で、お手播き箱へそれぞれ2種類の播種とします。
- お手播きの種子は、鳥取県の自然条件にあった在来の樹種の内、高木性を中心に県民に親しみのあるものとします。
- お手播きされた種子は鳥取県が管理・育成し、県内公共施設等に広く「記念樹」として配布し、植樹いただきます。

#### 〔お手播き樹種(4種)〕

クリ	ヤマザクラ
イロハモミジ	ヤマガキ

#### 〔天皇陛下お手播き樹種(2種)〕

樹種	特徴・選定理由等
<p>クリ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の里山を代表する樹種の一つです。</li> <li>・野生のいわゆる「シバグリ」で、本種を基に多くの栽培品種が作られました。</li> <li>・クリの実は、縄文時代の遺跡から出土しており、古来重要な食糧でした。</li> <li>・万葉集の、山上憶良が「瓜食めば子等思ほゆ、栗食めばまして思ほゆ」と詠んだ「子等を思ふ歌」が有名です。</li> <li>・現在でも、正月の縁起物として「勝ち栗」が用いられます。</li> <li>・材は、堅く腐りにくいため、枕木、建築材、器具材に用いられます。</li> <li>・県西部にある国内最大級の弥生時代の集落「妻木晩田遺跡」では、竪穴住居の柱などの建築部材にも使われていました。</li> </ul>
<p>ヤマザクラ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内を代表する野生の桜で、県内にも広く自生しています。</li> <li>・早春、葉と同時に花が開き、紅色の若葉と淡紅白色の花のコントラストが見事です。</li> <li>・秋の紅葉も見事で、晩秋の山を彩る樹種の一つです。</li> <li>・ナメコの原木栽培に多く利用されています。</li> </ul>

## 〔皇后陛下お手播き樹種(2種)〕

樹種	特徴・選定理由等
<p style="text-align: center;"><b>イロハモミジ</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内に広く自生する落葉広葉樹の一つです。</li> <li>・公園や庭園などに多く植えられていることから、モミジの木として身近な樹種です。</li> <li>・本種を基に多くの園芸品種が作られています。</li> <li>・葉が指を開いた手のひらの形に5～7裂し、春の新緑と秋の紅葉が楽しめます。</li> <li>・イロハモミジの名前の由来は、イロハは7つの裂片を「イロハニホヘト」と順番に数えたことに由来しています。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>ヤマガキ</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の里山の原風景として思い浮かぶ代表的な樹種です。</li> <li>・秋に柿色の実をたくさんつけ、人も動物も好んで食べます。</li> <li>・実はビタミン類が豊富で、昔は栄養価の高い医者いらずの万能薬として重宝されていました。</li> <li>・ヤマガキの名前の由来は、実も葉も赤くなるので赤木(アカキ)と呼ばれ、その後「カキ」と呼ばれるようになったという説や、熟した果実が輝いて見えることから「カガヤク」が転じたという説、「噛む(かむ)」が「カキ」になったという説など諸説あります。</li> </ul>

## 4 代表者記念植樹計画

○参加者代表は、天皇皇后両陛下の2本目のお手植えと同時に記念植樹を行います。

○場所は、特別招待者席前で行うものとし、それぞれ1本ずつ植樹を行います。

○植樹は、天皇皇后両陛下のお手植えと同じ樹種とします。

## 5 参加者記念植樹計画

○とっとり花回廊いやしの森(伯耆町小野)、及び国立公園奥大山鏡ヶ成高原(江府町鏡ヶ成)の各植樹会場で、地域特性等に合わせて選定された樹種を、未来の森をイメージしながら一人1本以上植樹いただきます。

○県外招待者は、記念式典開始前の午前中に植樹し、県内招待者は、午前・午後に分かれて植樹いただきます。

○植樹用苗木は、県内の児童等、県民が育てた苗木も使用します。

### 〔とっとり花回廊/参加者記念植樹樹種(25種程度)〕

アオハダ	アカガシ	アカマツ	アベマキ
アラカシ	イヌシデ	イロハモミジ	ウワミズザクラ
エゴノキ	エノキ	クリ	クロモジ
ケヤキ	コナラ	コハウチワカエデ	シラカシ
スダジイ	ホオノキ	マユミ	ムラサキシキブ
ヤブツバキ	ヤマガキ	ヤマザクラ	ヤマボウシ
ヤマモモ			

※50音順に記載

### 〔国立公園奥大山鏡ヶ成高原/参加者記念植樹樹種(20種程度)〕

アオハダ	アズキナシ	イタヤカエデ	ウリハダカエデ
ウワミズザクラ	オオカメノキ	クリ	クロモジ
コハウチワカエデ	サワグルミ	タニウツギ	ツノハシバミ
トチノキ	ナナカマド	ブナ	ホオノキ
ミズキ	ミズナラ	ミズメ	ヤマボウシ

※50音順に記載



## 6 植樹会場の森林づくりの方向性

- 植樹会場の一区画に、「とっとり共生の森」参画企業の協力で、「とっとり連携の森」の植樹を行います。
- 花回廊いやしの森では、第64回全国植樹祭に参加した子供たちが、記憶を永くとどめ、学習に役立ててもらおう、展示植栽スペースを用意し、県木や市町村木等特別な樹種の植栽を行います。
- 各植樹会場の植栽樹種は、自然条件や周辺環境の状況等に応じて、森林づくりの方向に即した樹種を植栽します。
- 植樹後は、緑の少年団、ボランティア等が手入れを行い、その様子を全国発信します。

### 〔花回廊いやしの森／奥大山鏡ヶ成高原〕

#### 〔将来イメージ〕

##### ●交流の森



- 四季の彩りを感じられる樹木を植栽
- イヌシデ、イロハモミジ、ウワミズザクラ、ヤマガキ、クロモジ、コハウチワカエデ、ホオノキ、マユミ、ムラサキシキブ、ヤブツバキ、ヤマザクラ、ヤマボウシ、ヤマモモ

##### ●体験の森



- 果実等が小動物や鳥、昆虫の餌となる樹木を植栽。多様な生き物が生息する森とする。
- アオハダ、エゴノキ、エノキ、ヤマガキ、アカガシ、アベマキ、アラカシ、シバグリ、コナラ、シラカシ、スダジイ

##### ●学習の森



- 子供たちがメモリアルとして、県木や市町村木等県内の代表的樹木を植栽。観察・学習展示林とする。
- ダイセンキョロボク、サザンカ、ブナ、ツバキ、クロマツ、サクラ、アカマツ、スギ、イチイ、カキ、トチノキ、ナシ

##### ●生活の森



- 暮らしの中で、薪炭、シイタケ原木、用材として利用可能な樹木を植栽。下狩りや落ち葉かき作業等で下層を整理。
- アカガシ、アラカシ、ケヤキ、コナラ、シラカシ、スダジイ

## 7 植樹会場整備計画

### 〔花回廊いやしの森〕

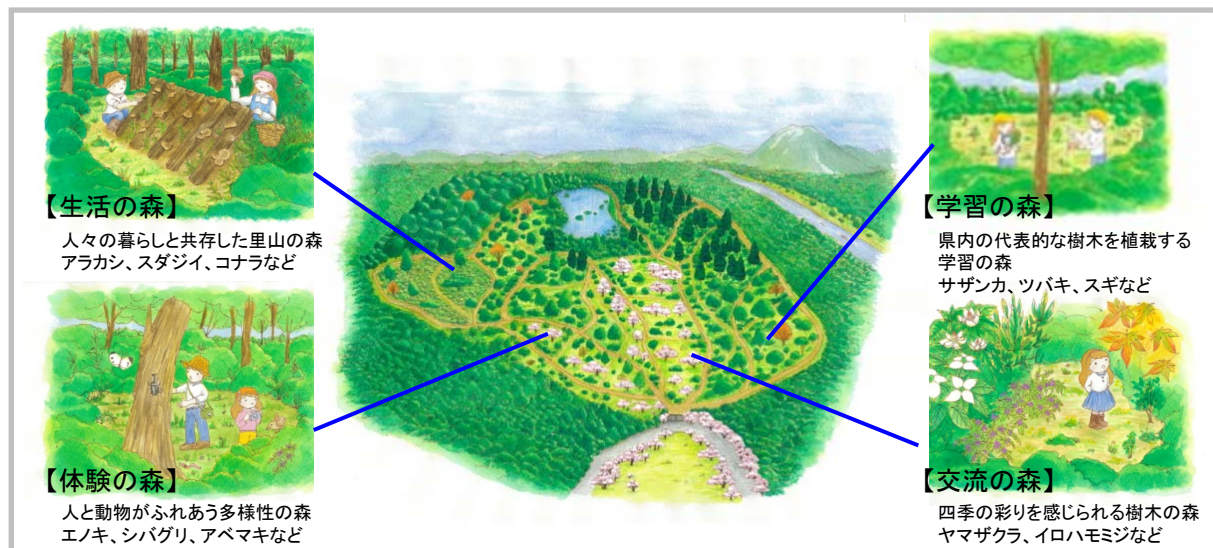
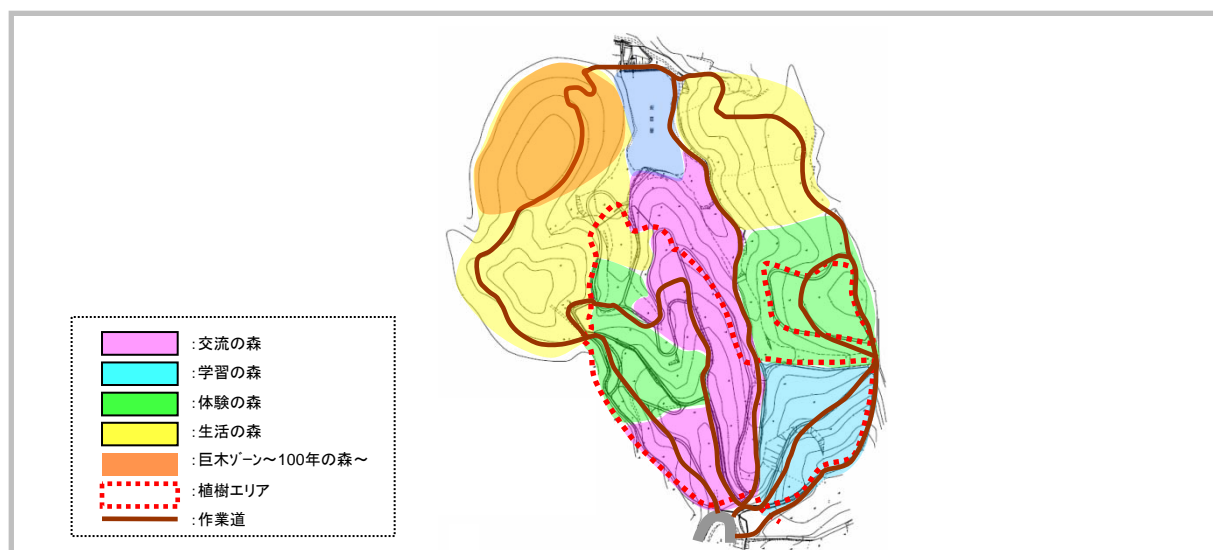
#### 【現状】

里山利用(木立や枝葉・下草を、家庭用燃料や肥料として採取利用)が行われなくなったため、草木が乱雑にしげった「やぶ」状態になっています。

#### 【整備計画】

- 現地の植生を踏まえ、いやしの森全体を将来イメージの4つのゾーンに区分します。
- 会場は、薪、木炭、シイタケ原木となる木立や枝の採取、堆肥となる落葉や下草の採取、野生キノコやクリ等の果実の採取、四季折々の美しい花木の観賞、野鳥の観察、カブトムシやクワガタ等昆虫の観察等の場として利用可能であり、これら「里山のめぐみ」の体験フィールドとしての森林づくりを進めます。
- やぶを整理し、植栽が必要となった区域を植樹会場に設定し、多様性を保ちながら各ゾーンにふさわしい植栽樹木を選定します。
- 巨木に囲まれ多様性の高い区域は、現状のまま自然林として生かします。
- 植樹祭時は参加者の動線を確認し、開催後は体験活動のサポートを図るため、地形に沿った環境に優しい鳥取式作業道による軽車道と間伐材チップをマルチングに活用した歩道を整備します。

#### 〔将来イメージ〕





## 〔奥大山鏡ヶ成高原〕

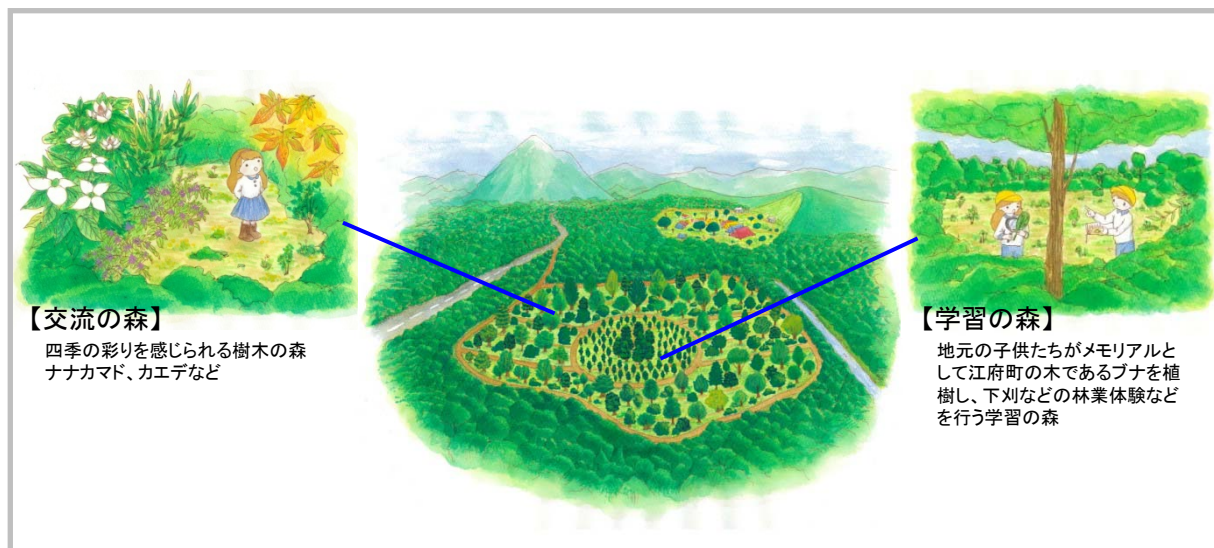
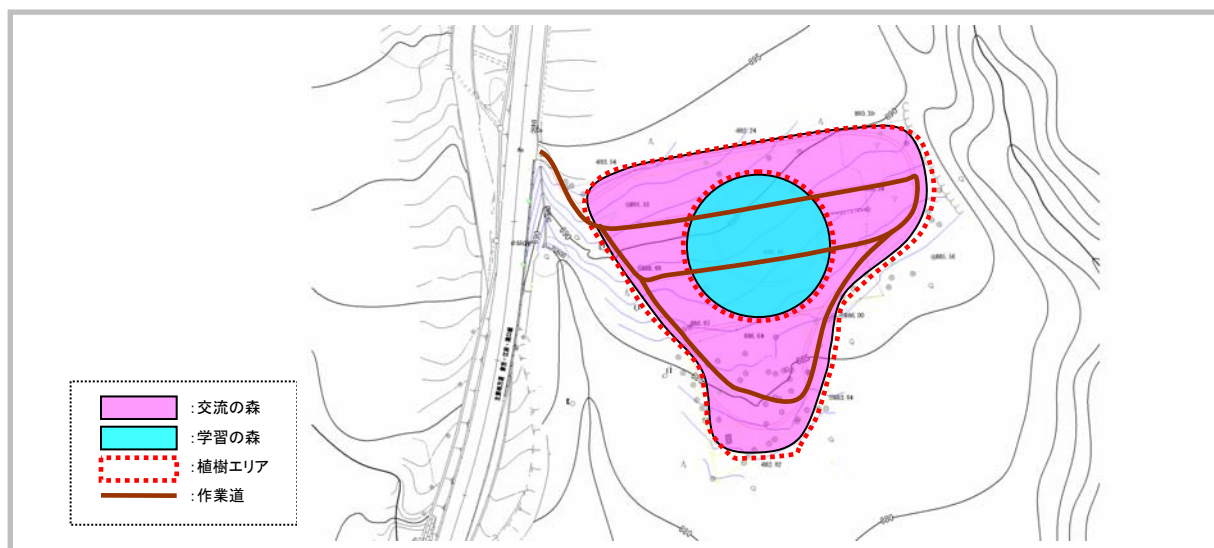
## 【現状】

戦後の開墾地が放置され、一面のススキ野原となり、現状のままでは幼樹の進入が困難なため森林への復旧が困難な野原となっています。

## 【整備計画】

- 現地周辺の植生に配慮しつつ、ススキに覆われた原野を森林へ早急に戻す森林づくりを考えます。
- 地元で始まっているブナの森づくり活動を展開する場として位置づけ、森林を2つのゾーンに区分します。
- 区画全体の刈り払いを行い、ゾーンの区分けも兼ねた作業道及び歩道を整備し、中央に地元小・中学校の森林体験活動を行うゾーンを設置。これと外周の森林をつなぐ区域を植樹会場に位置づけます。
- 植栽木の植樹木は、現地適正の高いナラ類とし、ミズナラ、ブナ、ホオノキ、トチノキ、ミズキ、カエデ類等を混植します。
- 中央のゾーンは、子供たちが種から育てたブナの苗木を毎年継続的に植栽し、下刈りなど森林活動体験を行います。

## 【将来イメージ】



## 1 基本方針

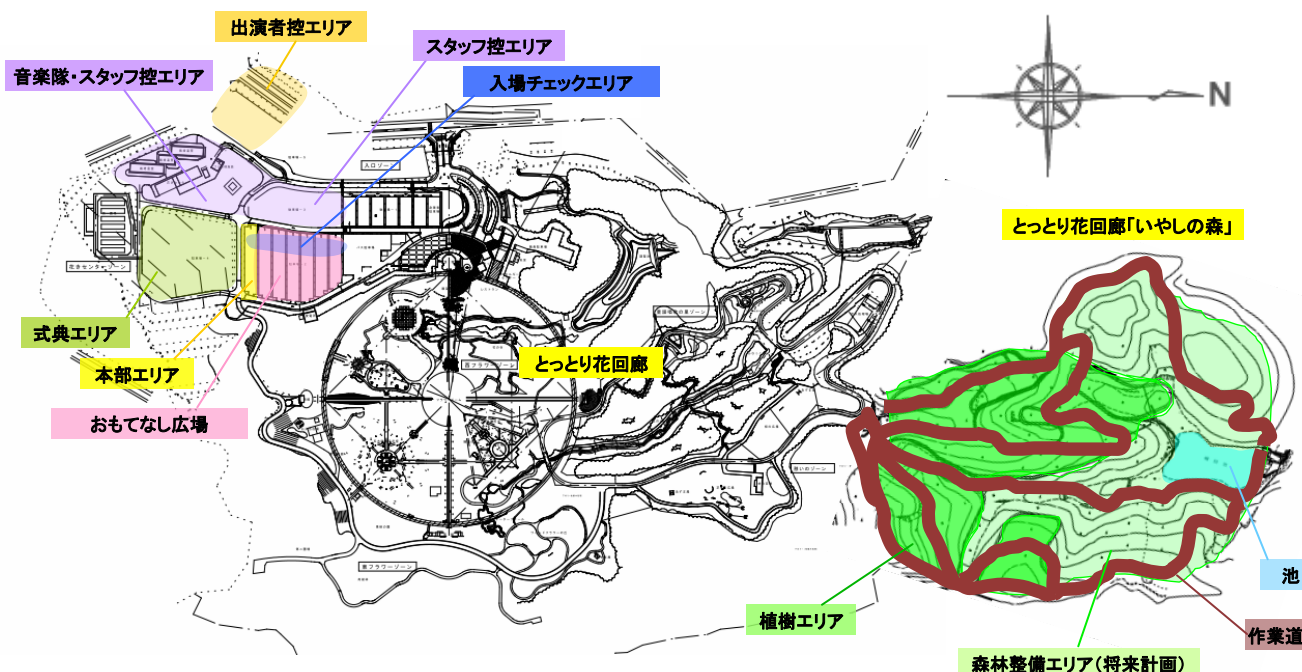
- 第64回全国植樹祭の開催理念や健全な生態系の維持などを様々な視点から検討し、樹木の伐採、土地の掘削・造成など、自然環境に負担をかけないよう、今の地形を有効に活用し、経費の節減を図りながら整備します。
- 出来るだけ跡地利用も考慮に入れた整備を検討します。
- 全参加者が、安全で使い易い快適なデザインとします。
- 仮設物等の整備は、県産材をふんだんに使用し、木の香る会場づくりとします。



(第60回全国植樹祭／H21年 福井県)

## 2 施設配置計画

### (1) 会場周辺状況





(2) 式典会場イメージ図





### 3 主要施設計画

#### (1) お野立所

○お野立所は、県産材を使用し、周辺の景観と調和したものとします。また、建築にあたっては安全性や風対策に十分配慮するとともに、構造や施工方法については経済性を重視します。

○天皇皇后両陛下の御歩道はウッドチップにて仮舗装します。

○終了後の有効利用を検討します。

#### (2) 仮設工作物

○仮設構造物は、県産材を使用し、安全性、経済性及び周辺の景観に配慮したものとします。

○背景にある大山が良く見えるように、構造物の高さや配置を工夫するとともに、鳥取の木の文化をできるだけ取り込んだ仮設物を設置します。

○やむを得ず造成する場合は、必要最小限にとどめるよう配慮します。

#### (3) 木製品

○ベンチ、プランター等の木製品には、間伐材などの県産木材を使用します。

#### 〔ベンチ例〕

##### 【無垢】



砂丘の風紋をイメージした「うづくり(浮造り)」で表面を仕上げ、スギの模様の良さが自然の風景に映える鳥取らしいデザイン。

##### 【LVL】



斬新で完成された夏向きの涼しげなデザインで、LVLのシャープな切り口がデザインの一部として生かされている。

##### 【Jパネル】



普及性を考え低価格を実現しながら、安全性にも配慮し、コンパクトで椅子らしいシンプルなデザイン。

## 4 サイン計画

○参加者が安全かつスムーズに植樹行事、式典に参加することができ、移動に支障がないように分かりやすい案内サインを設置します。

○サイン・展示には、県産材を活用するなど、環境に配慮した資材を使用します。

○「鳥取の歴史・カラー」を表現したテーマカラーで統一したデザインを施します。

- ・鳥取らしさのデザインキーワード：弥生／鳥／花々／木の文化
- ・弥生時代の人々が愛した色、弥生時代の身近な風景の色をテーマカラーと設定します。

① 藍色



② 茜色



③ 緑色



〔サイン・展示箇所及び内容〕

設置区域	サイン種別	内 容
会場全体	施設表示	各エリア、施設等の名称
	誘導	招待者等を各エリア、施設等に誘導するサインを動線上に設置
	注意事項	遵守事項、安全管理事項、手荷物検査の協力要請事項等を参加者動線上に設置
式典会場	座席表示	中央特別招待者は、各席に座席表を貼付 特別招待者入口に座席配置表を設置 一般招待者席は、バス号車単位で座席を表示
	会場位置	主要エリアごとに会場内の現在位置を表示
植樹会場	植樹地誘導	バス号車ごとに決められた展示ブロックへ誘導するサインを参加者動線上に設置
	植樹位置	バス号車単位に決められた植樹ブロックを表示
	式典会場誘導	植樹終了後、式典会場へ誘導するサインを参加者動線上に設置
輸送バス	バス号車	添乗員が参加者を誘導する際に使用するプラカード

## 5 飾花計画

- 会場周辺の飾花は、県内高校生が育成した花を使用し、会場の雰囲気を引き立てるとともに、参加者の安全かつ円滑な動線が確保できるように配置します。
- お野立所まわりは、とっとり花回廊のメインフラワーである「ユリ」や姉妹公園であるオランダのキューケンホフ公園との交流の証となる「チューリップ」で飾花します。
- お手植え会場及び式典会場内に設置するプランターに関しては、間伐材などの県産木材を使用します。
- 鳥取県をはじめ、関係市町村、関係団体、県民が一体となり、花飾りや美化に努めます。

〔飾花箇所及び内容〕

設置区域	内 容
お手植え会場 式典会場	各エリアの動線や区分を行うとともに、会場の雰囲気を引き立てるよう、プランター等を設置します。
植樹会場	広大な敷地に対して、各エリアの植樹区分が分かりやすくなるよう配置します。
式典会場と植樹会場の 連絡道路	招待者の安全で円滑な誘導が出来るよう、プランターを配置します。
アクセス道路	県及び関係各者が一体となり、飾花を行います。



## 6 電気・給排水・通信設備計画

### (1) 電気設備計画

○会場内で使用する電源は商用電源を引き込む他、仮設電源(ジェネレーター等)で対応します。

### (2) 給排水計画

○水は施設内より給水し、排水は回収後、適正に処理をします。

### (3) 仮設トイレ計画

○植樹会場、サービス広場などに適正な数量を配置します。また、衛生面にも十分配慮します。

### (4) 通信設備計画

○運営を円滑にするため、実施本部等に臨時電話を設置するほか、携帯電話、トランシーバー等の無線通信機器を適正に配置します。

## 1 基本方針

- 第64回全国植樹祭への参加者を「おもてなしの心でお出迎え」し、開催意義や理念を伝える機会とします。
- 全国植樹祭の運営には、市町村、林業関係団体、NPO法人及び各種ボランティア団体などの協力が必要不可欠であることから、実施については各団体の意向を踏まえ、しっかりと連携します。
- 「おもてなしの心でのお出迎え」は、観光関係者等と協力します。
- 参加者が安全・快適・清潔に過ごせるよう会場運営を行います。

## 2 招待計画

### (1) 招待計画による招待者区分

- 招待者は「県外招待者」と「県内招待者」に区分します。
- 「県外招待者」は、公益社団法人国土緑化推進機構理事長と鳥取県知事との協議によって定める者、及び各都道府県知事の推薦による者とし、公益社団法人国土緑化推進機構会長と知事の連名で招待します。
- 「県内招待者」は、実行委員会会長の推薦による者、県内各市町村長の推薦による者、県民公募により選定する者とし、知事が招待します。

参加者区分		人数
県外招待者	・公益社団法人国土緑化推進機構理事長と鳥取県知事との協議により定める者 ・各都道府県知事の推薦する者	1,500人
県内招待者	・第64回全国植樹祭鳥取県実行委員会会長の推薦する者 ・鳥取県の市町村長が推薦する者 ・公募による一般県民	3,500人
小計		5,000人
本部員・協力員	・実施本部員、出演者、運営ボランティア等	2,000人
合計		7,000人

(2) 運営上による参加者区分

○運営上の参加者区分は下記の通りとします。

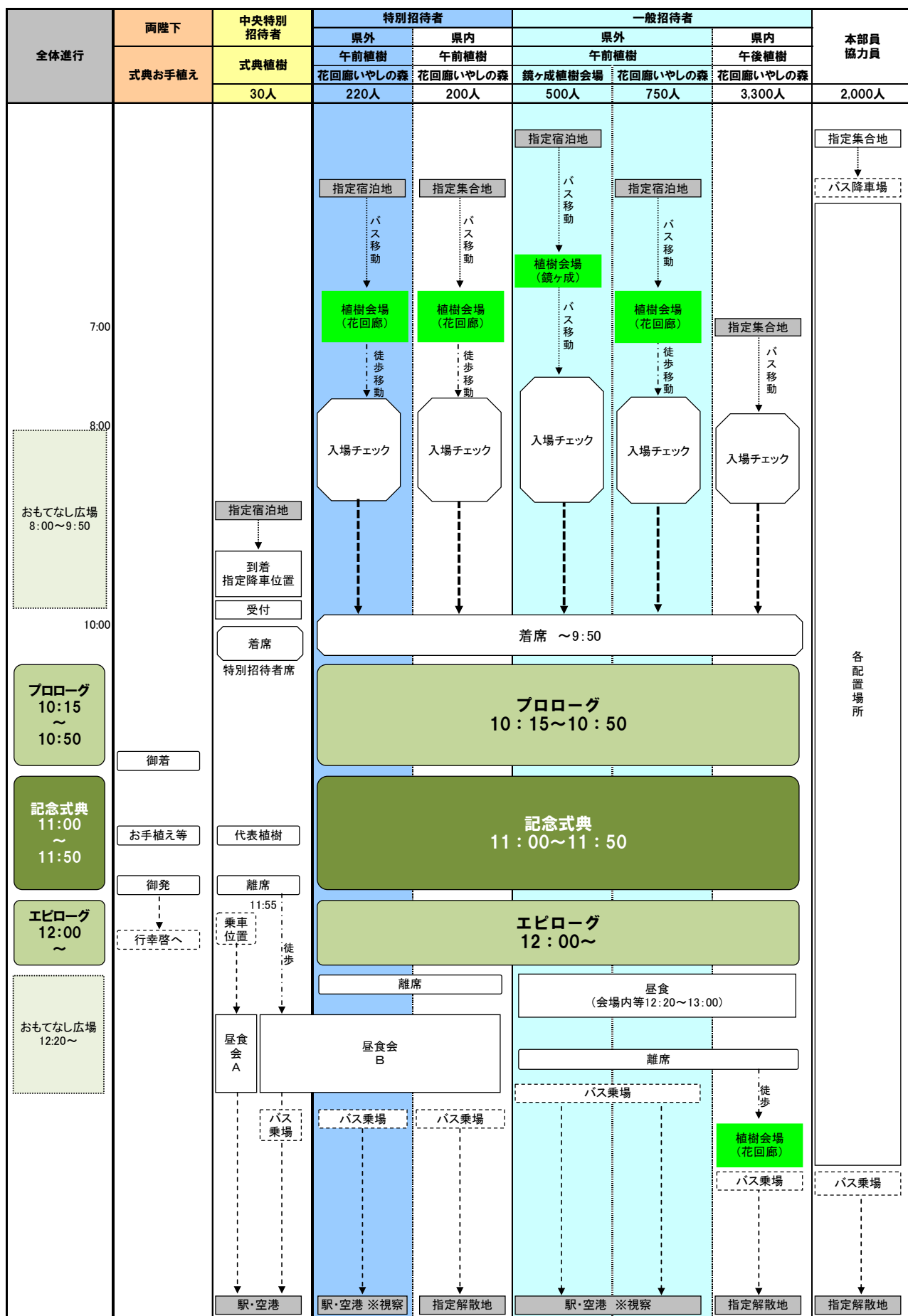
区 分		人数	備 考
中央特別招待者①		30人	国務大臣、公益社団法人国土緑化推進機構会長、林野庁長官、鳥取県知事、県議会議員、次期開催県知事、開催市町長、公益社団法人国土緑化推進機構理事長 等
特別招待者	県外特別招待者	220人	県選出国會議員、中央官庁・団体関係者、緑化功労者、コンクール入賞者、都道府県知事及び議会議員 等
	県内特別招待者	200人	県議会議員、市町村長、緑化功労者、実行委員会委員 等
	小 計②	420人	
一般招待者	県外一般招待者	1,250人	各都道府県森林・林業関係者 等
	県内一般招待者	3,300人	県内の森林・林業関係者及び県内公募による一般県民等
	小 計③	4,550人	
招待者小計(①+②+③)		5,000人	
本部員・協力員④		2,000人	実施本部員、出演者、運営ボランティア等
合計(①+②+③+④)		7,000人	

(3) 輸送及び植樹時間による招待者区分

移動方法	植樹時間	区 分	人 数
乗用車	式典中に植樹	中央特別招待者	30人
バス	式典前に植樹	県外特別招待者、県外一般招待者	1,470人
バス	式典前に植樹	県内特別招待者	200人
バス	式典後に植樹	県内一般招待者	3,300人



### 3 参加者行動計画



## 4 受付計画

### (1) 全国植樹祭招待者受付

- 前日に宿泊する招待者は、宿舎到着時と当日バス乗車時に受付及びチェックを行います。
- 宿泊しない招待者は、当日バス乗車時に受付を行います。

#### ① 前日受付

- ・宿泊する中央特別招待者、特別招待者、県外一般招待者については、1回目の受付を行います。
- ・2回目は、全国植樹祭当日、バス等に乗る前に行います。

区 分	受付場所	受付時間	受付内容
中央特別招待者	宿舎	宿舎到着時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルームキー配布</li> <li>・記念品・大会用品の配布</li> <li>・宿泊に関する説明</li> <li>・レセプション参加の説明</li> </ul>
特別招待者 県外一般招待者		宿舎到着時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・案内状確認～名簿照会</li> <li>・ルームキー配布</li> <li>・記念品・大会用品の配布</li> <li>・宿泊に関する説明</li> <li>・翌日集合時間、場所等の説明</li> <li>・レセプション参加者には、集合時間、場所等の説明を行う。</li> </ul>

#### ② 当日受付

- ・全国植樹祭当日の受付は、宿舎や指定集合地で、バス等に乗車する前に行います。

区 分	受付場所	受付時間	受付内容
中央特別招待者 (宿泊)	会場受付	会場到着時	受付名簿確認後、胸章を接伴員に渡す。
特別招待者 県外一般招待者 (宿泊)	宿舎バス乗場	宿舎出発前	バス乗車時、名簿を確認する。 IDカードを付けるよう案内する。
県内特別招待者 県内一般招待者 (宿泊なし)	指定集合地	バス乗車時	バス乗車時、名簿を確認する。 大会用品、IDカードを渡す。 県内特別招待者には胸章を渡す。

- ・式典会場入場時、入場チェックを行います。

区 分	チェック場所	チェック時間	チェック内容
中央特別招待者 以外の招待者	式典会場入口	入場前	IDカード、危険物のチェック

## (2) レセプション受付

- ・前日に開催されるレセプションの受付は、下記により行います。

区分	受付場所	受付時間	受付内容
中央特別招待者 特別招待者	会場入口	会場入場前	名簿の確認、会場案内

※入場者のチェックも行います。

## (3) 招待者に配布する記念品等

- ・全国植樹祭の開催理念や大会テーマ、鳥取県の自然や産業、観光資源、特産品等を全国に発信するため、記念品等を配布します。
- ・記念品の選定にあたっては、県産品の活用を図るとともに、遠方からの参加者の持ち帰りやすさに配慮します。
- ・式典の円滑な運営のためにIDカードや帽子等を配布します。

## 〔主な配布物〕

- ・全国植樹祭プログラム
- ・IDカード(識別証)
- ・帽子(参加者区分)
- ・記念品(特産品等) 等

## 5 特別接伴・接遇計画

### (1) 中央特別招待者対応

- 中央特別招待者には実施本部員(中央特別参加者接遇班)が専属対応を行います。
- 前日は、出迎えからレセプションの受付、会場内の案内、誘導、宿泊場所への案内など常時サポートします。
- 式典当日は、出迎えから受付誘導、会場内の案内、植樹誘導、昼食案内、見送りまで常時サポートします。
- 移動には原則として乗用車(借上車)を使用します。
- 中央特別招待者の行動が常時把握できる通信連絡体制にします。

### (2) 特別招待者対応

- 移動には原則としてバスを使用することとします。
- 特別招待者用バスには1台当たり2名の実施本部員(特別招待者接遇班)が対応します。
- レセプションに参加する特別招待者については、出迎えからレセプション受付、会場内の案内、宿泊場所への案内など常時サポートします。
- 式典当日は、出迎えから受付誘導、会場内の案内、植樹誘導、昼食案内、見送りまで常時サポートします。
- 特別招待者の行動が常時把握できる通信連絡体制にします。

### (3) レセプション計画

- 天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、第64回全国植樹祭の開催県として、招待者の来訪を歓迎懇親を深める場とします。

〔主 催〕 鳥取県

〔開催日時〕 全国植樹祭開催の前日 18:00～19:00予定

〔会 場〕 両陛下の宿泊施設内

〔出席者〕 350名程度

・中央特別招待者

(国務大臣、次期開催県知事、開催市長、  
公益社団法人国土緑化推進機構理事長等)

・県外特別招待者(緑化功労者、代表表彰者、県選出国會議員)

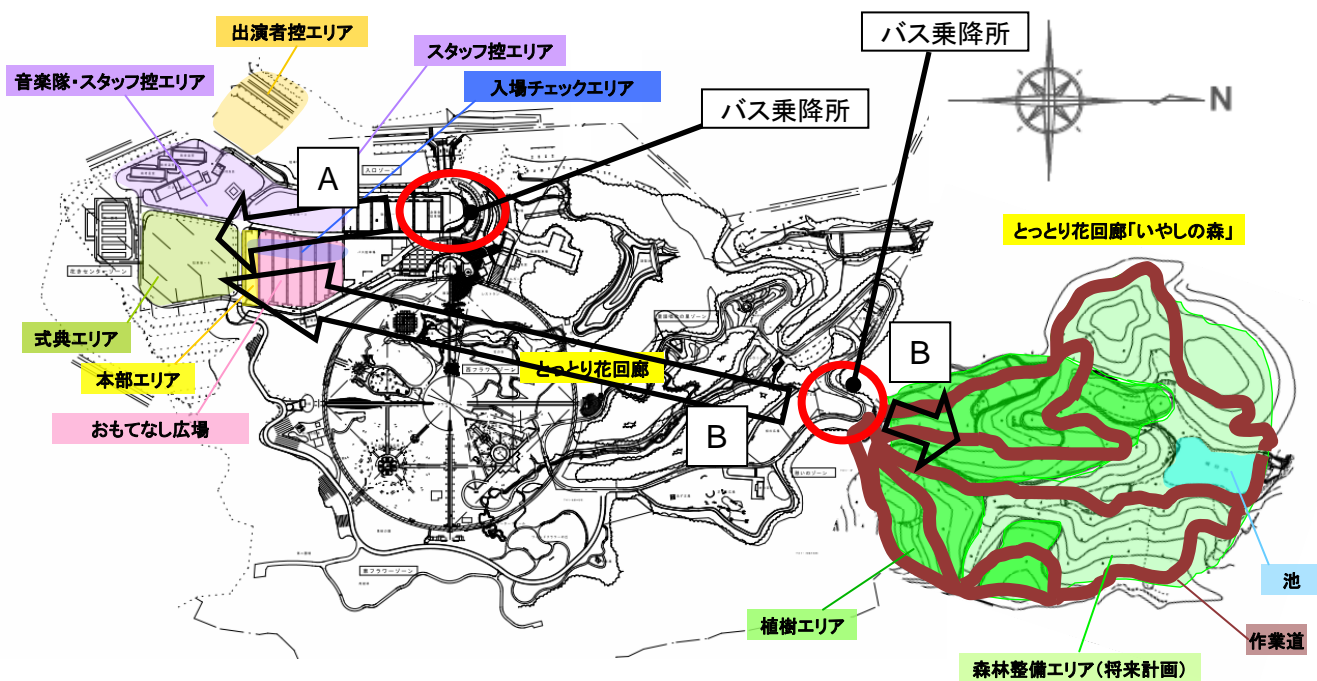
・県内特別招待者(緑化功労者、県議會議員、市町村長、実行委員会委員等)

## 6 会場内動線計画

### (1) 午前

A(午後植樹): 植樹祭会場到着から式典会場まで

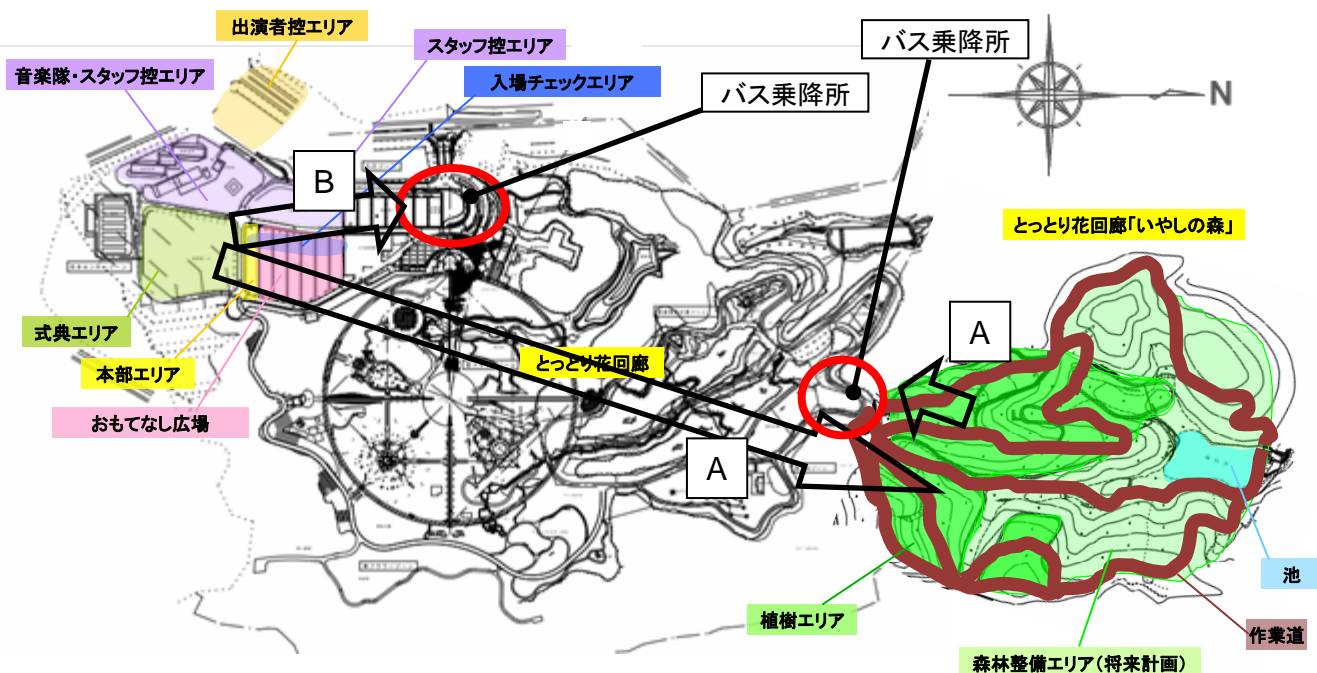
B(午前植樹): 植樹会場到着から植樹、その後式典会場へ



### (2) 午後

A(午後植樹): 式典会場から植樹会場へ

B(午前植樹): 式典会場から出発まで



※招待者動線に関しては今後の調整にて決定いたします。



## 7 会場おもてなし計画

- 式典会場と隣接しておもてなし広場を設置します。招待者が安心・安全・快適に利用できるよう、総合案内所や、湯茶接待所、救護所、仮設トイレなどを整備します。
- 鳥取県の森林づくり活動や観光、県産品等を招待者に広くPRするため、各種展示コーナーや観光案内所、物産販売の専用ブースなどを関係団体の協力により運営します。
- 体験型のイベントを開催し、鳥取県の人々と県外からの来場者とのふれあいを創出します。
- おもてなしステージでは、鳥取県を代表する歌や踊りの賑やかな演目を実施します。
- 湯茶接待コーナーを「お招き茶屋」とネーミングし、鳥取のお菓子とお茶でおもてなしします。
- おもてなし広場の運営にあたっては、出展者等との協力により、廃棄物の減量化に取り組むとともに、飲食物の提供において環境に配慮した容器を使用する等、環境に優しい運営に努めます。
- 地域の観光ガイドや地元の大学生などのボランティアにも参加いただき、鳥取県らしい運営を行います。

区分	施設名	内容
式典会場 (おもてなし広場)	総合案内所	参加者に対する各種案内・情報提供、案内誘導、各種パンフレットの配布、遺失・拾得物の管理
	おもてなしステージ	歌や踊り、郷土芸能等の披露
	湯茶接待所(お招き茶屋)	参加者に湯茶、ミネラルウォーター、お菓子等を提供
	販売コーナー	鳥取県の特産品や飲食物等を販売
	展示コーナー	鳥取県の森林、林業、観光等について展示紹介
	臨時郵便局	記念切手の販売と郵便、宅配サービス
	救護所	参加者の体調管理・救護
	休憩テント	休憩用のテントを設置
植樹会場	案内所・簡易救護所	参加者に対する各種案内・情報提供・応急処置

〔おもてなし広場施設例〕



販売コーナー



総合案内所



ドリンクコーナー

## 8 昼食計画

○昼食の食材に、県産食材、地元特産品等を使用し、広くPRに努めます。

○昼食の製造、輸送、保管、配布は、衛生・安全面に十分配慮します。

○納入業者の選定は、製造能力、運搬時間等を検討し、選択します。

### (1) 中央特別招待者、特別招待者

・中央特別招待者とその随行員は、指定場所での昼食会とします。

・特別招待者は、一部を除き、指定場所での昼食会とします。

### (2) 一般招待者

#### ○昼食場所

県外招待者は、式典会場内での昼食(弁当)とします。県内招待者は、式典会場内又はバス内での昼食(弁当)とします。

実施本部員・協力員等は原則として業務に従事する場所での昼食(弁当)とします。

#### ○弁当の内容等

鳥取県産食材を盛り込み、鳥取らしさを実感できる内容にします。弁当の輸送・保管・配布は、衛生・安全面に十分配慮し、保冷車で運搬します。

## 9 医療・衛生計画

### (1) 医療救護所の設置

○式典会場及び植樹会場に救護所を設置し、傷病者の医療救護を行います。

○救護所には、医薬品や休憩用ベッド等を備えます。

○消防署や近隣の医療関係機関の協力を得て、緊急の場合の輸送・受け入れ体制を整えます。

### (2) 衛生対策

○保健所等の協力を得て、食品衛生や環境衛生について、関係機関と協議を行い、衛生対策体制を整備します。

○食の安全を期すため、弁当業者や宿泊施設、会場内の食品提供施設などの指導を徹底します。

○飲料等により発生する廃棄物の適切な処理を行い、式典会場及び周辺的环境美化に努めます。

## 10 消防・防災・警備計画

- 参加者の安全を確保し、安心して参加できるようにします。
- 消防防災部門と警備部門の連携を密にし、消防署、消防団、警察その他関係機関との協力体制を築きます。
- 特に危機管理については、責任者を明確にし、迅速な初期対応ができるようマニュアル等を作成し研修を行います。

### (1) 消防・防災

- 実施本部の消防防災班が中心となり、異常の早期発見・通報に努めます。
- 会場内は、喫煙所以外はすべて禁煙とし、主要施設には消火器を設置します。
- おもてなし広場等の火気使用についても管理を徹底します。
- 情報の伝達は、混乱を生じさせないよう、参加者に対するルートと実施本部員・協力員等のルートに分けて適切に行い、参加者全員が安全に避難できる体制を整えます。
- 避難については、避難計画を策定し、実施本部員への周知徹底を図るとともに、避難訓練を行い非常時に備えます。

### (2) 警 備

- 会場内での事件事故を防止し、円滑な運営を図るため、警察等関係機関と協力して警備を実施します。
- 当日は、警備員、会場警備班および協力員を配置して、警備や車両の整理、招待者の誘導を行います。
- 式典会場入場ゲートでは、金属探知機等による持ち物検査や入場者の確認を行います。
- 式典会場、植樹会場、駐車場等では、式典使用物品等の搬入後、夜間も含め、監視・巡回警備等を行います。

## 11 実施本部計画

○全国植樹祭の円滑な運営を図るための実行組織として、「第64回全国植樹祭鳥取県実施本部(仮称)」を設置します。

○効率的な要員配置を行うとともに、ボランティア、開催町職員などの積極的な協力を得て、実施運営の円滑化、および参加者の安全性や快適性の確保に努めます。

[実施本部体制案]



## 12 研修リハーサル計画

○円滑な運営に向けて、実施本部員、協力員の研修を行うほか、出演者を含めたリハーサルを実施します。

○効果的な研修、リハーサルを実施するため、事前に各班毎の運営マニュアルを作成します。

○リハーサル計画に基づき、実施本部全員が業務の内容を把握できるようにします。

### (1) 実施本部員等の研修計画

○実施本部員及び協力員への研修は、事前の資料配付、現地研修、リハーサルへの参加等により行います。

○協力員(関係市町村職員、ボランティア、関係団体の構成員等)の研修は、リハーサルへの参加により実施します。

### (2) 研修・リハーサル計画

区分	時期	場所	人数	参加者	内容
①出演者説明会	3ヶ月前	未定		出演者代表	式典概要説明会
②合同説明会	開催 6～5週間前	式典会場 植樹会場 (花回廊)		本部員全員 出演者代表	式典全体の説明
③式典 リハーサル	開催 4～2週間前	式典会場		出演者(介添者) 本部員(関係班のみ)	式典部分リハーサル
④総合 リハーサル		式典会場 植樹会場		本部員全員 協力員(一部) 出演者全員	式典全部、通しリハーサル、車両、参加者誘導、接遇研修、非常時訓練他
⑤荒天会場 説明会		荒天会場		出演者(介添者) 本部員(関係班のみ)	会場確認及び説明
⑥前日 リハーサル	開催前日	式典会場 植樹会場		本部員全員 協力員全員 出演者全員	式典全部、通しリハーサル、車両、参加者誘導、非常時訓練他

※③式典リハーサルと④総合リハーサルは、2日連続での実施を検討します。

## 13 雨天時・強風時対応計画

○雨天時対応マニュアルを作成し、雨天時や強風時にも円滑な運営ができるようにします。

○晴天時の計画と同じ内容で行うことを基本に、必要な配慮・準備を行います。ただし、雨や風の程度に対応した変更プログラムを作成します。

○プロローグやエピローグは天候に応じ、各出演団体と協議の上、変更内容を決定します。

○式典音楽隊の音楽が不可能な場合は、事前に演奏を収録した音源を使用します。

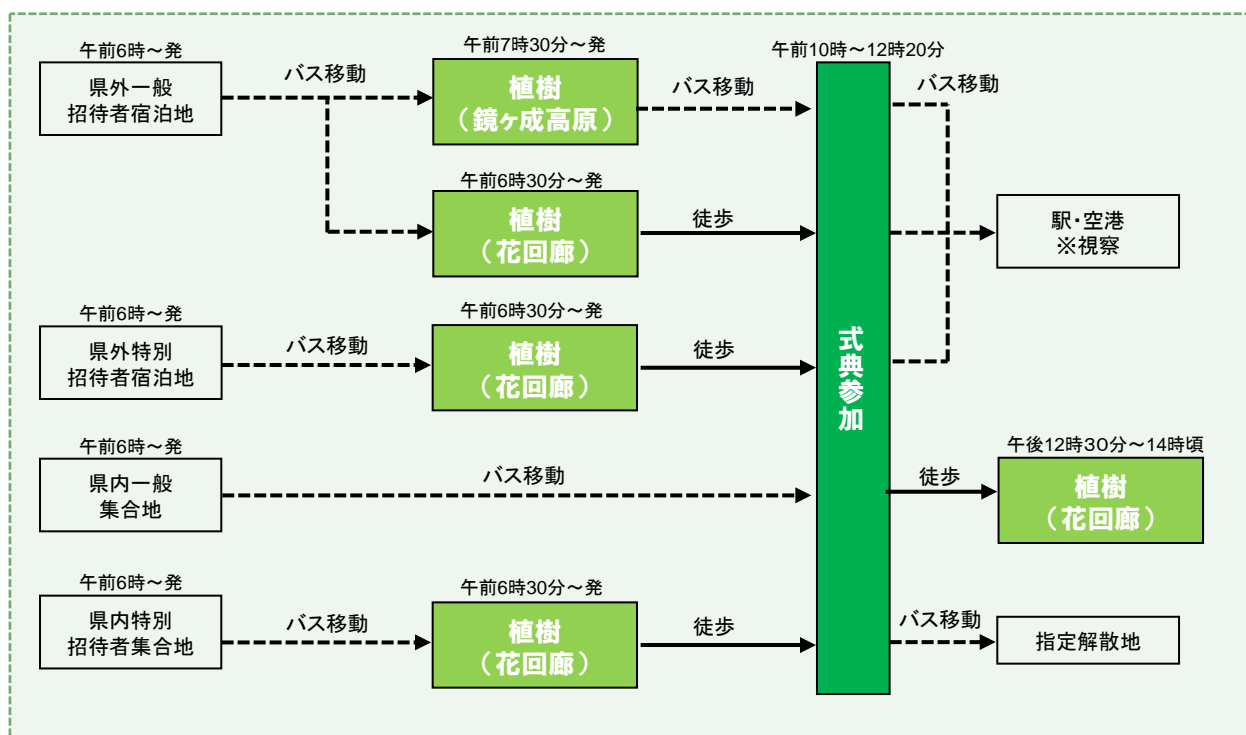
○会場警備上、傘の持ち込みができないため、参加者全員にレインコートを事前に配布します。



## 1 基本方針

- 式典前夜、宿泊参加者(主に県外招待者)は、原則として実行委員会が指定する、植樹会場もしくはその近隣の地域の施設に宿泊します。地域の方々には、食材や自然・文化・歴史などとのふれあいが図られるよう、おもてなし体制を整えていただきます。
- 宿泊施設の収容人員、宿泊料金、道路交通事情、送迎体制、式典終了後の視察ルート等を総合的に勘案し、無理のない宿泊・輸送体制を整えます。
- 式典当日、宿泊参加者は各宿泊施設から、当日参加者(主に県内招待者)は最寄りの集合地から、実行委員会が手配するバス等により会場へ移動します。
- 参加者等の安全で円滑な輸送を図るため、運行ルート、輸送スケジュール及び交通規制などについては、関係者で綿密な検討を行い、添乗員の配置・案内等により快適な輸送体制を整えます。
- 会場の周辺およびアクセス道路沿線の安全を確保し、警備に万全を期します。
- 会場へのアクセス道路沿線では、地元市町村や関係者、地域住民の参加・協力を得て、美化等に努めるとともに、参加者を歓迎します。
- 県外招待者に対して、式典終了後の視察コースを設定し、鳥取県の森林・林業・木材産業や自然・文化・歴史に対する理解を深めていただき、観光振興も図られるよう取り組みます。

〔植樹祭当日の参加者スケジュール〕



※時間については、要調整。

## 2 宿泊計画

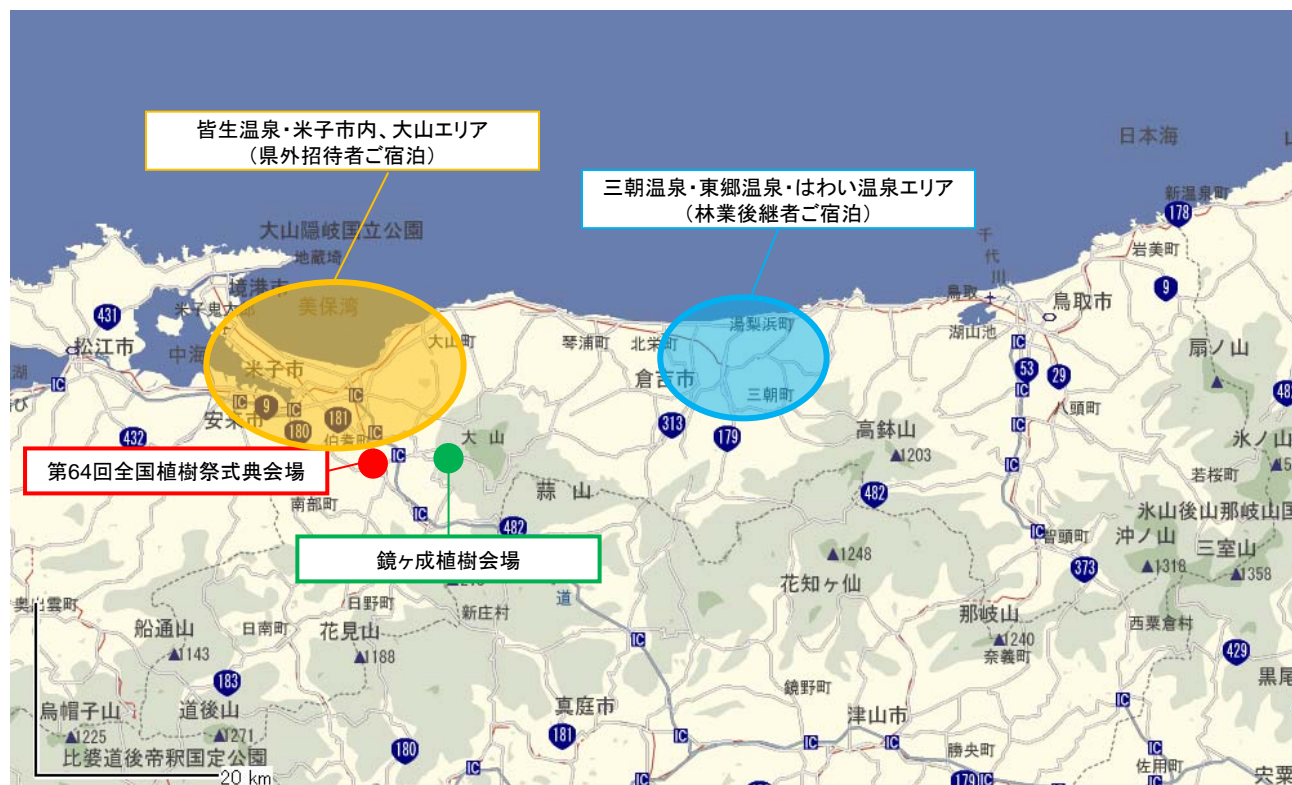
招待者の宿泊施設は、交通の利便性や快適性等を考慮して、実行委員会が指定します。

### (1) 宿泊施設の選定

- 県外招待者の方には、鳥取の食材や自然・文化・歴史等とのふれあいが図られるよう「おもてなしの心」を持つ宿泊施設にご宿泊いただきます。
- 開催行事会場やスケジュール、道路状況やアクセス等を総合的に鑑みた宿泊エリア・宿泊施設を選定いたします。
- フロントやロビー等宿泊施設内に専用ブースを設置いただき、招待者にお渡しする配布資料(植樹祭関連各種案内資料、行動計画表、IDカード、胸章、帽子等)を円滑に確実にお渡しできる体制を整備します。
- 館内はもとより、安全に計画輸送バスの乗降できる場所が確保できる宿泊施設を選定いたします。
- 消防法や食品安全衛生法等法令に基づく基準を満たすことは勿論、夜間緊急時等搬送できる救急病院や緊急対応担当者の有無、AED(自動体外式除細動器)の設置有無を事前に把握し、万が一の事故に備えます。

### (2) 宿泊候補地

- 第42回全国林業後継者大会に参加される招待者は、会場が中部地区で予定されていることから、会場に近い「三朝温泉」、「東郷温泉」、「はわい温泉」に原則、宿泊いただきます。
- 上記以外の式典参加者は、原則「皆生温泉、米子、大山地区」に宿泊いただきます。



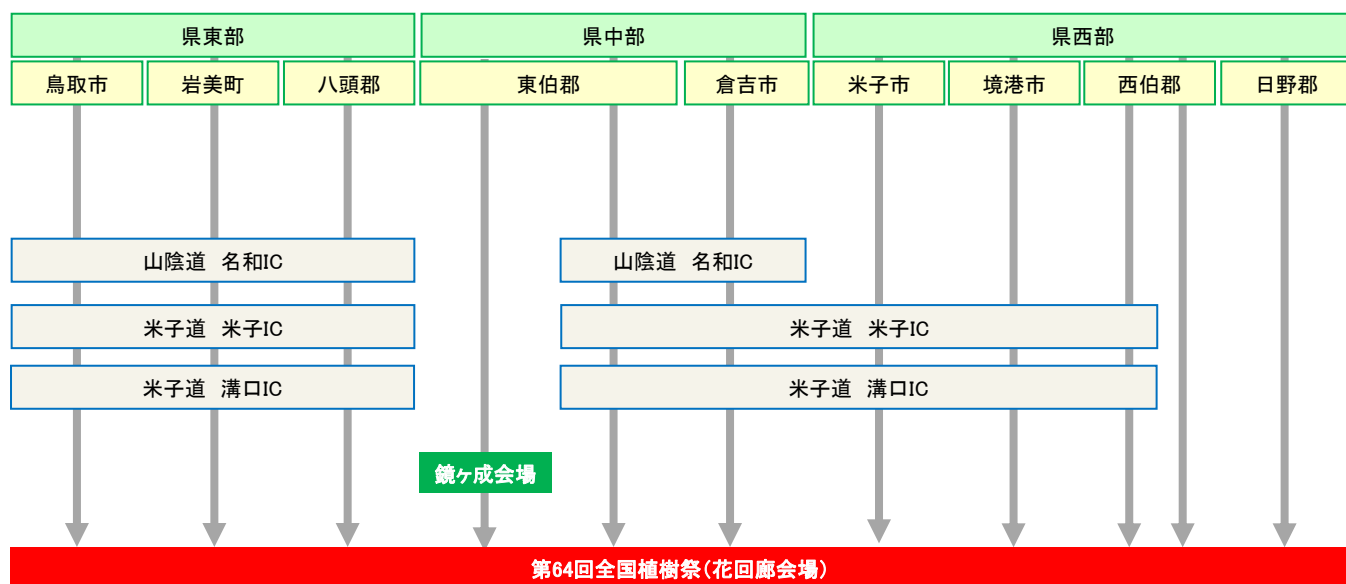
### 3 輸送計画

#### (1) 参加者ごとの輸送方針

- 式典当日の道路混雑状況等のリスクを想定し、極力移動時間がかからない最短ルートを設定します。
- 交通事故や渋滞等の不測の事態に備え、万が一の場合の代替ルートや迂回ルートの設定を行います。
- 参加者等の安全で円滑な輸送を行うため、仮輸送計画(シミュレーション)を策定し、バス事業者、関係機関と協議・検討のうえ、運行ルートを設定します。

#### (2) 輸送フロー

招待者は、各宿泊施設又は、予め指定された集合地において、主催者の準備した車両を利用し、会場に向かいます。



(3) 輸送ルート(往路・復路)



(4) 関係車両一覧

参加者区分	輸送手段	台数	同乗者	備考
中央特別招待者	ハイヤー等	30台	接伴員	
県外招待者	計画輸送バス	50台	添乗員	各種案内・誘導
県内招待者	計画輸送バス等	119台	添乗員	各種案内・誘導
本部員・協力員 (実施本部員・出演者・ 運営ボランティア等)	計画輸送バス等	47台	担当班員等	※出展者等搬出入を 伴う場合はトラックを 手配
計	ハイヤー等乗用車 計画輸送バス	30台 216台		

(5) 駐車場計画

○駐車場は、道路交通事情も考慮し、会場の隣接地、または近傍地から選定し、一時的に確保します。

〔駐車場候補地一覧〕

区分	駐車場名	種別	台数	備考
県内・県外招待者	候補地一覧(P40) を参照	バス	169台	植樹地で招待者降車後空バスで駐車場へ移動
協力員等	候補地一覧(P40) を参照	バス	未定	花回廊内にて降車後、駐車場へ移動
	未定	乗用車等	未定	
出展者等	未定	乗用車等	未定	

〔バス駐車場候補地一覧〕

番号	名称	場所	会場からの距離
1	米子港駐車場	米子港	バスで約30分
2	大山榎原駐車場	大山山麓	バスで約30分

〔駐車場候補地 位置図〕



1. 米子港駐車場 位置図



2. 大山榎原駐車場 位置図





(6) 運行管理体制・緊急時対応

○式典会場周辺に輸送管理本部を設置し、運行状況の管理を一元的に行います。

○植樹祭参加車両の運行状況を把握し、安全で円滑な運行体制を実現するため、輸送ルート上にチェックポイント、休憩所、バス運行調整地を設置し、それぞれ係員を配置し、携帯電話や無線機等によりリアルタイムの連絡体制を確保します。

① 休憩所、チェックポイント、調整地

・休憩所

輸送時間が60分を超える場合に、休憩所でトイレ休憩をとります。

・チェックポイント

通過車両を確認し、運行状況の把握、緊急時の対応等を行います。

・調整地

会場内への車両の入り込みを円滑に進めるため、係員が輸送バスの車両確認を行い、車両区分ごとに会場に出発させます。

② 指定集合地

県内招待者の集合地として、県の総合事務所・市町村役場等の大型駐車場を県内各地に指定し効率的な輸送を行います。

(7) 道路交通対策

○式典会場及び植樹祭会場周辺の道路や植樹祭招待者の輸送ルートにあたる道路については、事前に道路管理者と協議の上、道路工事や道路占用許可等の必要な措置を講じます。

○交通対策については、植樹祭招待者及び周辺住民等の交通の安全の確保と車両の円滑な運行を行うため、関係機関の協力を得て、交通整理、交通規制等を実施します。

## 4 視察計画

(1) 基本的な考え方

○鳥取県の森林・林業や木材産業に対する理解を深めるとともに、鳥取県の魅力を十分伝えられるような観光コースを設定します。

○価格設定やコース設定など、参加者のニーズを捉えた内容で参加率を高め、観光振興も図ります。参加された方に、鳥取県が持つ様々な魅力・豊富な恵みを実感していただくことにより、『リピーター』になって頂き、全国で鳥取県をPRしていただけることを目指します。

(2) 主な視察候補地

エリア	
東部エリア	白兔神社・白兔海岸、仁風閣、智頭町森林セラピー体験、鳥取砂丘、山陰海岸ジオパーク
中部エリア	三徳山三仏寺『投入堂』、倉吉白壁土蔵群、鳥取二十世紀梨記念館、中国庭園『燕趙園』
西部エリア	とっとり花回廊、榊水高原、大山寺周辺、植田正治写真美術館、大山ブナ森ウォーキング、境港、水木しげるロード、妻木晩田遺跡、上淀廃寺跡

## 1 基本方針

- 暴風雨、集中豪雨等の荒天に見舞われ、晴天会場での式典実施が困難になった場合は、荒天会場  
で式典を実施します。
- 荒天会場での式典の開催決定は、実施期日の1週間前から随時情報収集や関係機関との協議を  
実施し、その判断を行うものとします。
- 荒天会場での実施決定に備え、関係機関と万全の連絡体制を構築し、円滑な実施運営を行います。

## 2 会場

- 米子コンベンションセンター  
(鳥取県米子市末広町294)



## 3 参加者一覧

- 荒天時式典の参加者は、県外招待者約350人、県内招待者約350人、実施本部員等約300人の、  
計1,000人程度とします。

区分	内訳	人数(人)
中央特別招待者	国務大臣、知事、次期開催県知事、開催市長等	30人
県外招待者	国会議員、中央省庁、中央団体、受賞者等	350人
県内招待者	県議会議員、実行委員会委員、受賞者等	320人
本部員・協力員	実施本部員、出演者、運営ボランティア等	300人
計		1,000人

## 4 荒天時運営計画

### (1) 式典計画

○晴天会場の式典次第から「プロローグ」「エピローグ」部分、記念式典のアトラクションおよび参加者代表記念植樹を除いた構成とします。

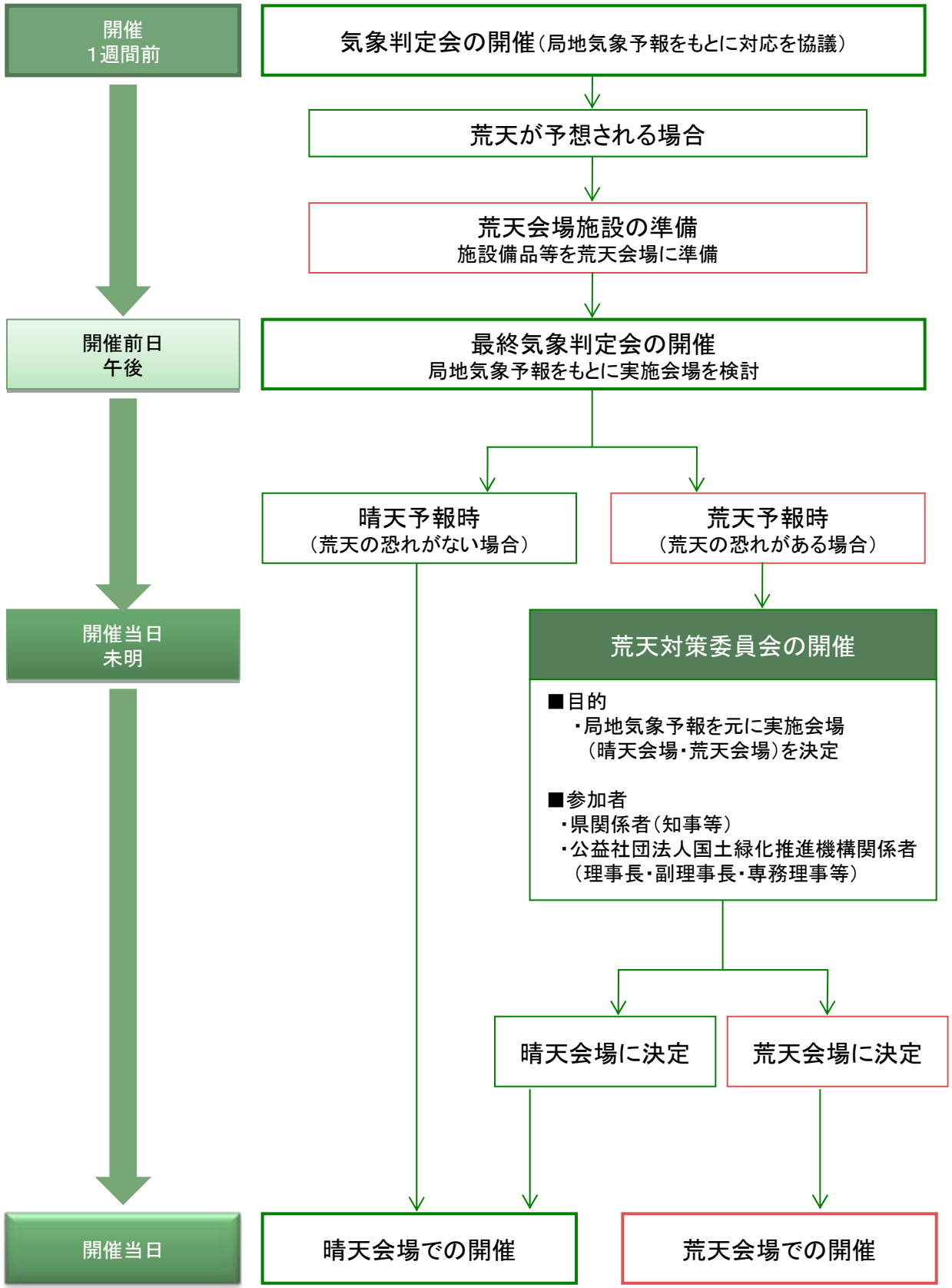
○式典音楽は、事前収録した音源やCD等を使用します。

○式典の時間は、50分程度とします。

### (2) 式典プログラム

参加者入場	
11:00	国務大臣、知事、次期開催県知事、開催市長等
式典	
11:10	天皇皇后両陛下下御到着 開会のことば 国歌斉唱 主催者あいさつ 表彰 苗木の贈呈 天皇皇后両陛下のお手植え、お手播き 大会宣言 リレーセレモニー 閉会のことば 天皇皇后両陛下下御退席
参加者退場	

(3) 荒天時への切り替えシステム





## 1 基本方針

- 全国植樹祭の開催を契機に「美鳥の大使による美しい国づくり運動」を核とした「とっとりグリーンウェイブ(県民運動)」の広がりを目指します。
- 県民誰もが参加しやすい運動形態とし、地域の活動と連携した取り組みを展開します。
- 植樹祭開催後も継続し、広がる運動を目指します。

## 2 運動の進め方

- 現在取り組まれている市町村やNPO、企業等の活動に加え自治会、農林水産関係団体等とも連携・協働し、地域特性や団体の活動分野等を活かしながら全県的な活動を促進します。
- 県が認定する「美しい国づくり運動」に参加した県民を「美鳥の大使」として認定する「美鳥の大使による美しい国づくり運動」を展開します。
- 全国植樹祭への参加や県民運動に参加いただいた「美鳥の大使」が、身近な人に伝え、発信することで県民運動の広がりを促進します。

## 3 県民運動の内容

区分	参加機会の例	参加対象項目					
		一般県民	学校	青少年団体・地域団体	農林水産団体	ボランティア・NPO	企業
式典 関連	○式典介添え等(みどりの少年団等) ○音楽隊		○	○			
運営 関連	○会場案内等、簡易な運営補助	○	○	○	○	○	
会場整備 関連	○飾花・清掃等美化装飾	○	○	○	○	○	
森林保全 ・ 環境保全 活動	○とっとり木づかい運動 ○里山林等の再生・ナラ枯れ防除活動 ○森の健康診断 ○森林セラピー ○森林環境保全税等による取り組み	○	○	○	○	○	○
記念 事業	○プレ全国植樹祭 ○カウントダウンイベント ○苗木のスクール・ホームステイ ○地域緑化・環境美化 ○ポスト植樹祭	○	○	○	○	○	
関連 事業	○全国林業後継者大会 ○「とっとり共生の森」参画企業との連携事業	○	○	○	○	○	○
広報 関連	○ポスター原画募集		○				
	○大会テーマ募集 ○シンボルマーク募集 ○愛称募集	○	○	○	○	○	
	○記念誌		○	○			
協賛 関連	○県民協賛	○	○	○	○	○	○
	○事業協賛				○	○	○
	○メディア協賛						○

## 1 基本方針

- 第64回全国植樹祭の開催に向けて、県民が大いに盛り上がり、同時に、森林のめぐみや森林整備の必要性等を理解いただくため、記念事業等を実施します。
- 子どもからお年寄りまで幅広く参加できるよう、また、楽しみながら体験できるイベントなどを県内全域で展開します。
- 全国植樹祭の開催を記念し、その成果を将来に伝えていくための事業を実施します。

## 2 記念事業等の内容

- 記念事業は、全国植樹祭の開催理念を達成するため、鳥取県実行委員会が主催する事業とします。実施にあたっては、県民誰もが参加できるよう、また、参加者同士がお互いに交流・協力し、知識等の向上をさらに深められるよう配慮します。

### (1) プレ全国植樹祭(1年前リハーサル)

第64回全国植樹祭の開催気運の盛り上げと県民参加による森づくりを推進することを目的として開催します。

〔時期〕 平成24年春季

〔場所〕 とっとり花回廊

〔内容〕 式典、記念植樹、森林体験、展示など

### (2) カウントダウン地域緑化イベント(平成24年度実施)

県内各地において、リレー植樹を計画します。

### (3) ポスト植樹祭(地域植樹会場での植樹祭)

第64回全国植樹祭開催後も開催理念等を伝え広げるため、植樹や育樹の体験型イベント等を行い、県民参加による森づくりを継続します。

〔時期〕 平成25年秋季～

〔場所〕 県内各地

〔内容〕 植樹、育樹、自然観察会、木工体験、その他森林体験など

### (4) 記録誌・記録映像の作成、記念切手の発行

第64回全国植樹祭の式典をはじめ、各種の記念行事や県民運動の活動を、記録誌や記録ビデオ等にまとめ、後世に残します。

### (5) 苗木のスクールステイをはじめとする育苗事業

とっとりグリーンウェイブの一環として、全国植樹祭等で使用する苗木の一部を小学校や家庭等で育てることで、緑の大切さと森づくりへの関心を高めます。

〔時期〕 平成23年春季～平成25年春季

〔場所〕 県下全域の希望する学校、家庭、団体

〔内容〕 苗木を育成、全国植樹祭で使用

### 3 関連事業等の内容

○関連事業は、関連団体が主催する事業のうち、全国植樹祭の開催理念と関連があり、互いに連携すべき事業とします。

(1)第42回全国林業後継者大会(第64回全国植樹祭開催日前日実施)

全国の林業関係者が一堂に会し、林業の振興と森林づくりの重要性を再認識し、森林を育て、活用し、木づかい運動を推進することにより、林業技術と元気な森林・林業を未来に引き継ぐことを国民に発信するための大会とします。

〔時 期〕 平成25年春(第64回全国植樹祭開催日の前日)

〔場 所〕 県中部地域

〔内 容〕 林業者の活動報告、パネルディスカッションなど

(2)「とっとり共生の森」参画企業との連携事業(平成23~24年度実施)

- ・同一日に一斉開催する各社の森林保全活動
- ・県、参画企業で共同開催するイベント
- ・参画企業が植栽苗木の一部を育てて提供
- ・参画企業の協賛をいただいて、著名人を招いた記念シンポジウムの開催 等



「とっとり共生の森」参加者



企業によるナラ枯れ被害の防止活動

# 1 広報計画

○開催理念や事業の展開などについて、お知らせするだけでなく、県民が率先してのおもてなしを盛り上げる内容とします。

○開催までの広報計画を、下記のように大きく3つの期間にゾーニングし、各市町村、関係団体と連携を図りながら、各種広告媒体の特性を生かした情報発信の取り組みを推進します。

①予告期間 ②周知・理解期間 ③拡大・発展期間

## (1) インターネットの活用

第64回全国植樹祭の公式ホームページを運営し、各種イベントや各種取り組み状況等を、タイムリーにかつ、広く、見やすく情報発信します。

## (2) マスメディアの活用

テレビ、ラジオ、新聞等により、全国植樹祭、記念行事、県民運動等に関する情報を提供します。

## (3) 市町村との連携

市町村の広報誌やイベント等での広報活動と連携を図り、全国植樹祭の周知と県民運動の推進を図ります。

## (4) 企業・団体との連携

シンボルマークやロゴマークの使用を広く呼びかけるなど、県内を中心とした企業・団体の支援協力による広報活動を通じ、全国植樹祭の周知を図ります。

## (5) 大会シンボルマーク、ロゴ等の活用

シンボルマークやポスター原画を用いた各種PRグッズを作成し、各種イベント等で積極的に活用して開催機運を盛り上げます。また、シンボルマークやロゴの使用を、県民や企業などにも広く呼びかけます。

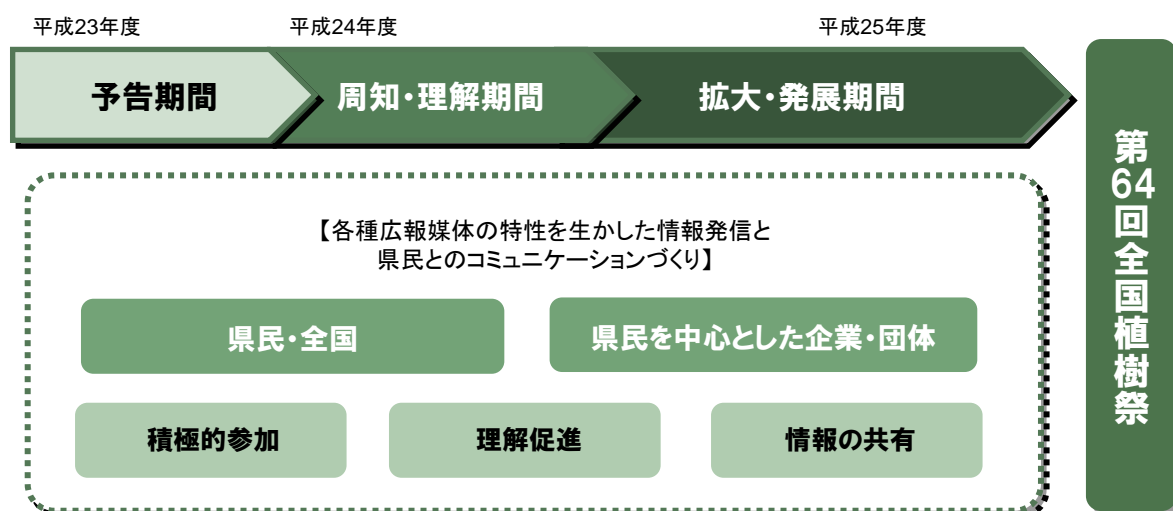
## (6) 植樹祭に関する情報誌の発行

全国植樹祭だよりなど、定期広報誌を発行し、開催準備状況、県民運動、記念事業等に関する情報を定期的に発行します。

## (7) PRグッズの作成・配布

第64回全国植樹祭のPRグッズを作成・配布し、開催の周知と気運の盛り上げを図ります。

## 【広報の展開イメージ】





## 2 協賛計画

- 全国植樹祭を一過性のイベントとして終わらせることなく、これを契機として、県民運動の広がりを図っていくため、県内の企業や団体、個人に対し、広く支援を求めています。
- 協賛社(者)は、全国植樹祭会場や公式ホームページ、及び記録誌等で名前が公表され、その協力が讃えられます。

### 第64回全国植樹祭への積極的参加による協賛形態

#### 県民協賛

- ・ボランティア活動
  - ・PRイベント等への参加
  - ・植樹祭関連商品の購入
  - ・個人からの募金
- など

#### 事業協賛

- ・企業、団体等の資金提供
  - ・物品や技術の提供
  - ・企業イベントとのコラボレーション
- など

#### メディア協賛

- ・メディアプログラムへの企業の広告協賛  
(新聞・雑誌・テレビ・ラジオ・交通広告・WEB・プロモーションなど)
- など

#### 【協賛の内容】

- 資金
- 物品・技術
- 広告
- 気持ち

それぞれの協賛の集結…

### 第64回全国植樹祭の成功

持続可能な森林づくりによる地球環境の保全や、  
里山林等森と親しみながら共生してゆくライフスタイル、  
就業スタイル等の

**「心癒される森林づくり」を推進**